

校内資料

“Leaders of Global Innovation”を養成！

平成29年度

在学生・教職員

# 高専総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

国際高等専門学校

## 平成29年度 高専総合アンケート調査結果について

学校のプログラムの成果と効果を継続的に観察し、その機能している強い部分を把握した上でそれらを強化し、同時にあまり機能していない弱い箇所も認識し改善していくことは重要です。学校はその出資者である学生と保護者、そして二次的な出資者ともいべき卒業生の雇用者、教職員、そして社会全般に対しても一連のサービスを提供していると言えます。学校が用意する教育サービスの本質とクオリティを評価するために、様々な種類のデータを収集し比較することが必要となってきます。よって国際高専にとって、毎年実施されている高専総合アンケートはひとつの鍵となる資料になります。

このアンケートは学生と教員における様々な受け止め方や、彼らが抱えている印象を示してくれる重要な指標となります。満足感や達成感は重要な目標であり、またプログラムそして職場としての学校のクオリティを指し示すものであります。

したがって、私たちは一般的な満足度を評価しようと試みており、またその満足度をより上げている要因、あるいは下げている要因となっているプログラムや施設の側面を把握することにも取り組んでいます。しかしながら、私たちが提示している「2020 Vision」の目標としては、満足だけには留まらずさらに先を目指しています。4つの主な目標としては、1)アカデミアを育てる、つまり学生と教員を含めた学習者のための協働コミュニティを育てる、2)学校生活を彩りあるものにする、つまり私たちが提供する教育体験をできるだけ魅力的にそして刺激的なものにするよう努める、3)個々の学生の唯一の個性やオリジナリティを評価し育てていく、そして4)革新的な考え方をする人物を教育していく。これらの目標に向かって進歩しているかを見極めるために、そしてその目標により近づいていく方法を探るために、私たちはここにいただいたデータを注意深く分析していかねばいけません。

ご協力下さいました関係者の皆様に感謝の意を表したいと思います。

平成30年6月

国際高等専門学校  
校長 ルイス・バークスデール

It is important to continuously monitor the outcomes and effects of school programs, both to identify and build on strengths, and to identify and improve weaknesses. A school offers a series of services to its principal stakeholders—students and guardians, as well as to secondary stakeholders, which include employers, the school staff, and society at large. In order to assess the nature and quality of the educational services that the school provides, it is necessary to gather and compare data from a variety of sources. For ICT, one of the key sources is the annual ICT General Survey of students and faculty.

The results of this survey provide an important indication of the range of attitudes the students and faculty hold, and impressions that they receive. A sense of satisfaction and fulfillment is both an important goal and an indicator of the quality of programs and of the school as a workplace.

So we try to measure general satisfaction and identify aspects of our programs and facilities that promote or detract from it. The goals of our stated “2020 Vision,” however, go beyond satisfaction. Four main goals are: 1) to foster an Academia—that is, a cooperating community of learners (including both students and teachers); 2) to make school life “colorful”—that is, to ensure that the educational experiences we provide are as engaging and stimulating as possible; 3) to value and foster each student’s unique personal individuality and originality, in order to; 4) educate innovative thinkers. We must carefully analyze the data we have here in order to assess our progress towards these goals and to find ways to move closer to them.

I would like to thank the staff members who helped carry out this survey, as well as the many people who participated in it.

June, 2018

International College of Technology, Kanazawa  
Lewis Barksdale, President

## ■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は国際高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に国際高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で15回目となる。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、平成20年度からは年度末の実施に戻している。

## ■調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、すべて無記名式とした。	
総回答数	489サンプル	
調査方法と回収数	1年生～5年生	・有効回答数 1年生:73サンプル、2年生:98サンプル、3年生:85サンプル、4年生:82サンプル、5年生:93サンプル ・各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成30年2月13日)
	卒業生	・今回は実施せず。
	教職員	・有効回答数 58サンプル ・各教職員に配布し、回収した。(配布:平成30年2月1日、回収締切:平成30年2月24日)
	企業担当者	・今回は実施せず。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

## ■集計に関して

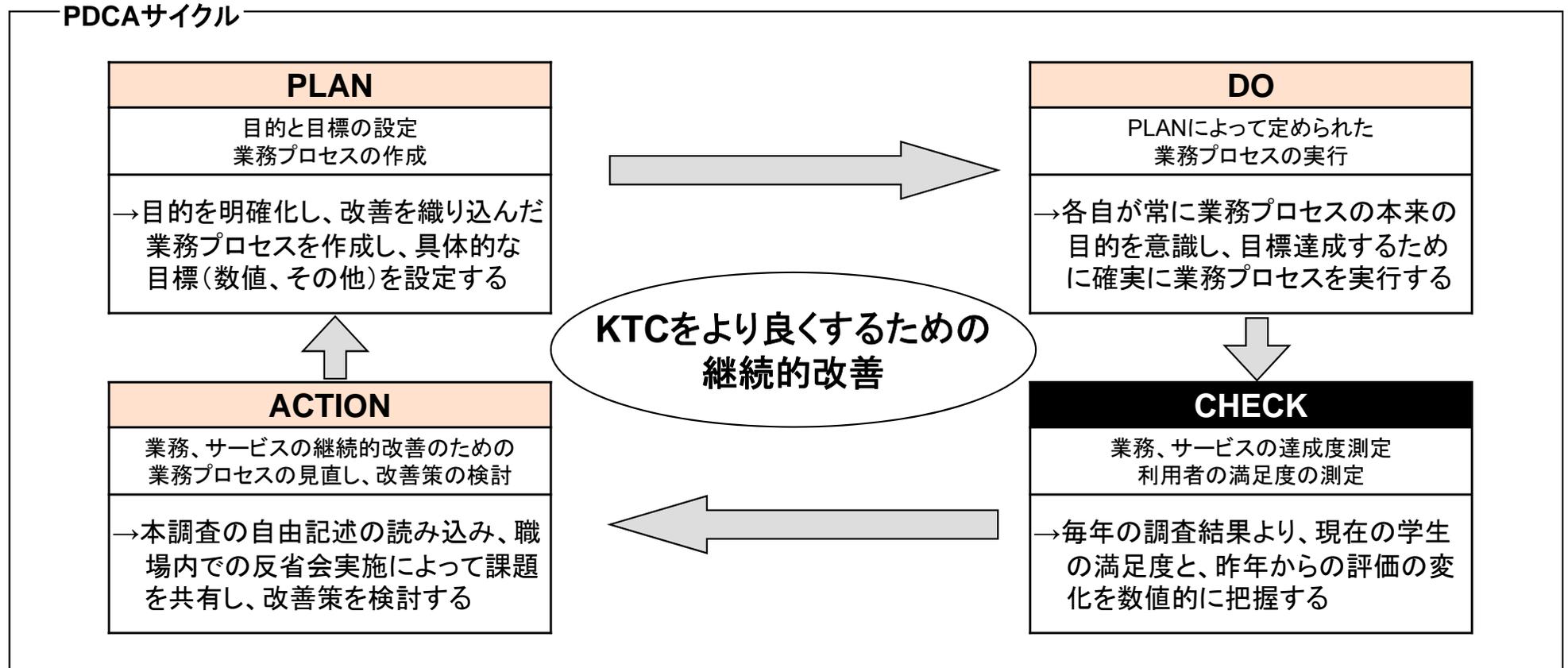
分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。</li> <li>・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。</li> <li>・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。</li> <li>・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。</li> </ul>
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。</li> </ul>
学科別集計、呼称に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年4月に金沢工業高等専門学校から国際高等専門学校に改称になりましたが、このアンケート調査は、前年度の平成30年2月に実施しているため、金沢高専または、KTCと表記している。</li> <li>・学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報学科」の3つの学科で比較を行った。「グローバル情報学科」はH27年度からの新しい呼称であり、4年生から5年生は「グローバル情報工学科」の所属であるが、新しい呼称に統一している。</li> <li>・各学科の略称は「電気電子工学科」を「電気電子」もしくは「T」、「機械工学科」を「機械」もしくは「M」、「グローバル情報学科」を「グローバル」もしくは「G・J」としている。</li> </ul>

## ■回答者数に関して

学年	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度 (今回分)
1年	140人	135人	122人	121人	92人	110人	81人	115人	134人	130人	112人	111人	112人	107人	73人
2年	127人	135人	130人	117人	108人	105人	104人	79人	113人	128人	120人	108人	106人	105人	98人
3年	113人	98人	113人	113人	88人	95人	92人	80人	63人	93人	108人	100人	93人	87人	85人
4年	121人	109人	113人	121人	114人	103人	103人	102人	91人	76人	101人	116人	107人	101人	82人
5年	129人	116人	101人	105人	124人	111人	96人	99人	98人	85人	75人	96人	107人	110人	93人
卒業生	66人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	77人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	73人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	49人	0人 (実施せず)
教職員	50人	56人	48人	50人	52人	59人	53人	62人	55人	55人	48人	59人	44人	49人	58人
企業担当者	65人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	36人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	71人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	789人	0人 (実施せず)
合計	811人	649人	627人	627人	578人	696人	529人	537人	698人	567人	564人	590人	569人	608人	489人

## ■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、CHECKステップに位置づけられる。

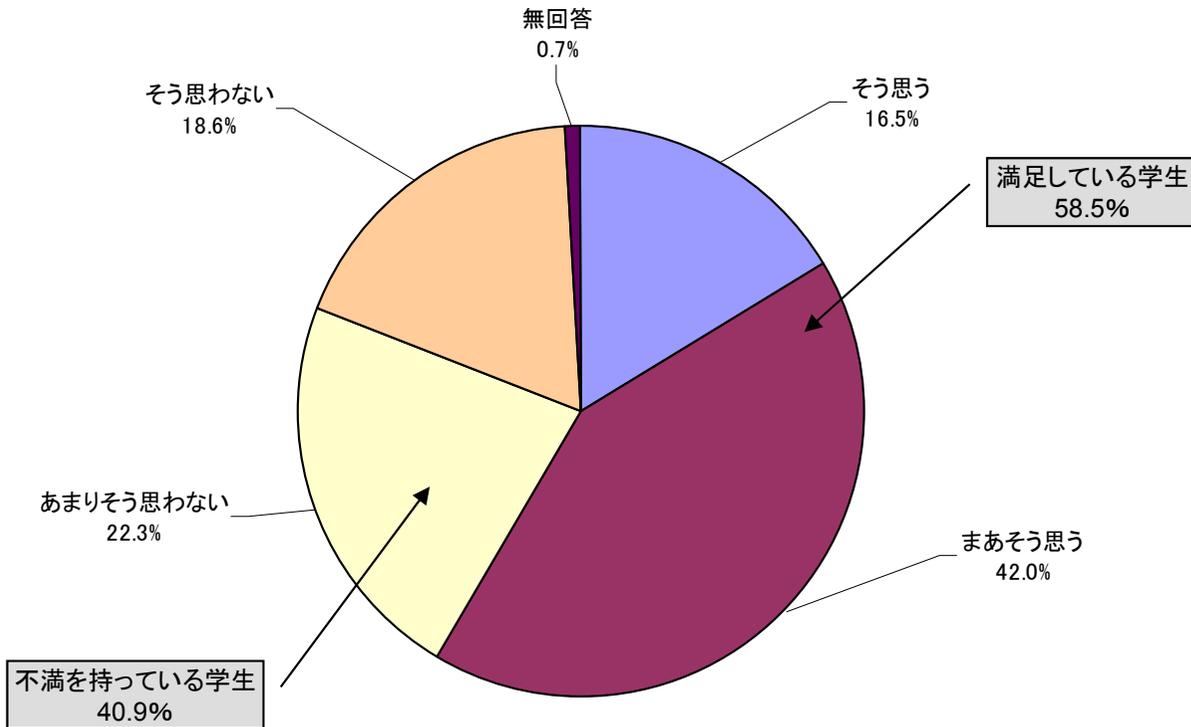


- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考として位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

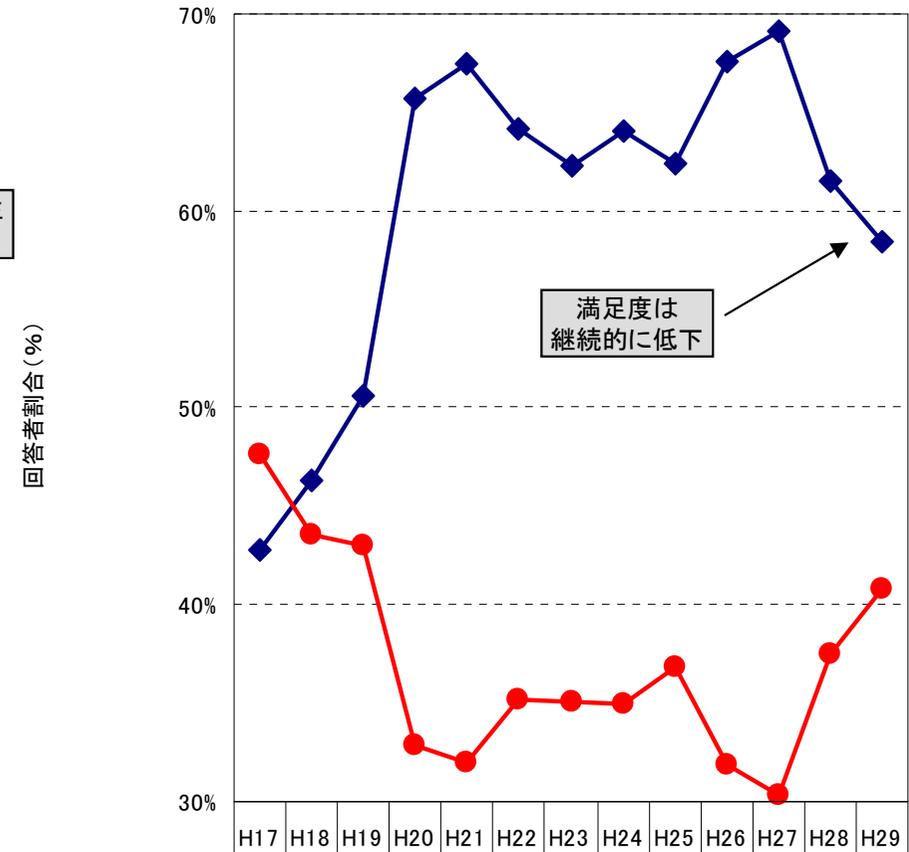
## ■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という質問に対して、「そう思う」が16.5%、「まあそう思う」が42.0%であり、合計すると58.5%になった。一方、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計は40.9%であった。
- 「満足している学生」と「不満を持っている学生」の年度別の比較を見ると、「満足している学生」は前回は3.1ポイント下回り、H20年以降で初めて6割を下回った。そして、「不満を持っている学生」は前回は3.3ポイント上回った。

### ■総合的に見て金沢高専に満足していますか？（在校生のみ）



### ■金沢高専の総合的満足度 年度別比較

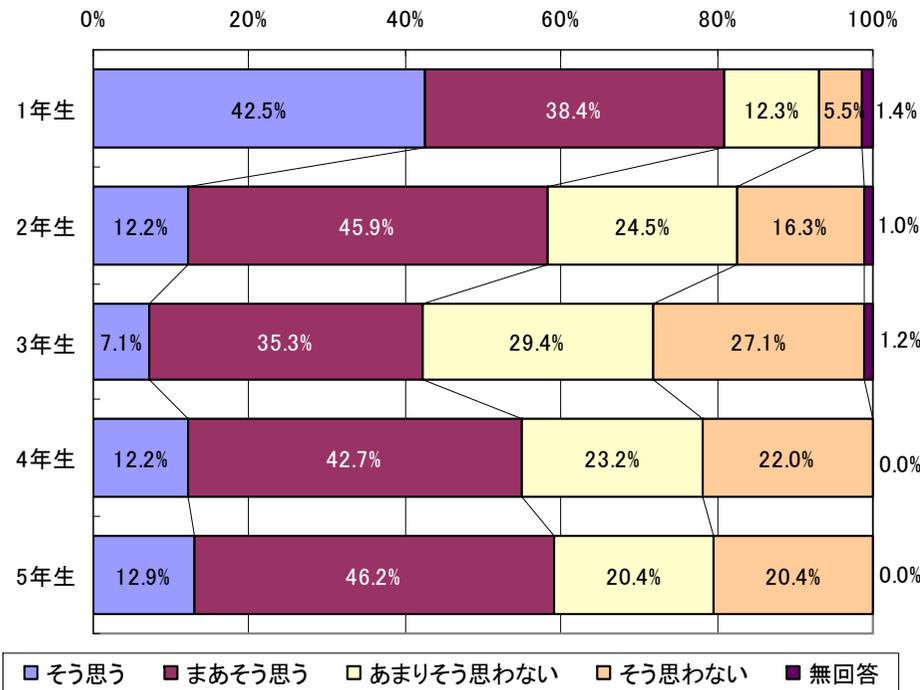


◆ 満足している学生	42.8	46.3	50.6	65.7	67.5	64.2	62.3	64.1	62.4	67.6	69.1	61.6	58.5
● 不満を持っている学生	47.7	43.5	43.0	32.8	31.9	35.2	35.1	35.0	36.8	31.8	30.3	37.5	40.8

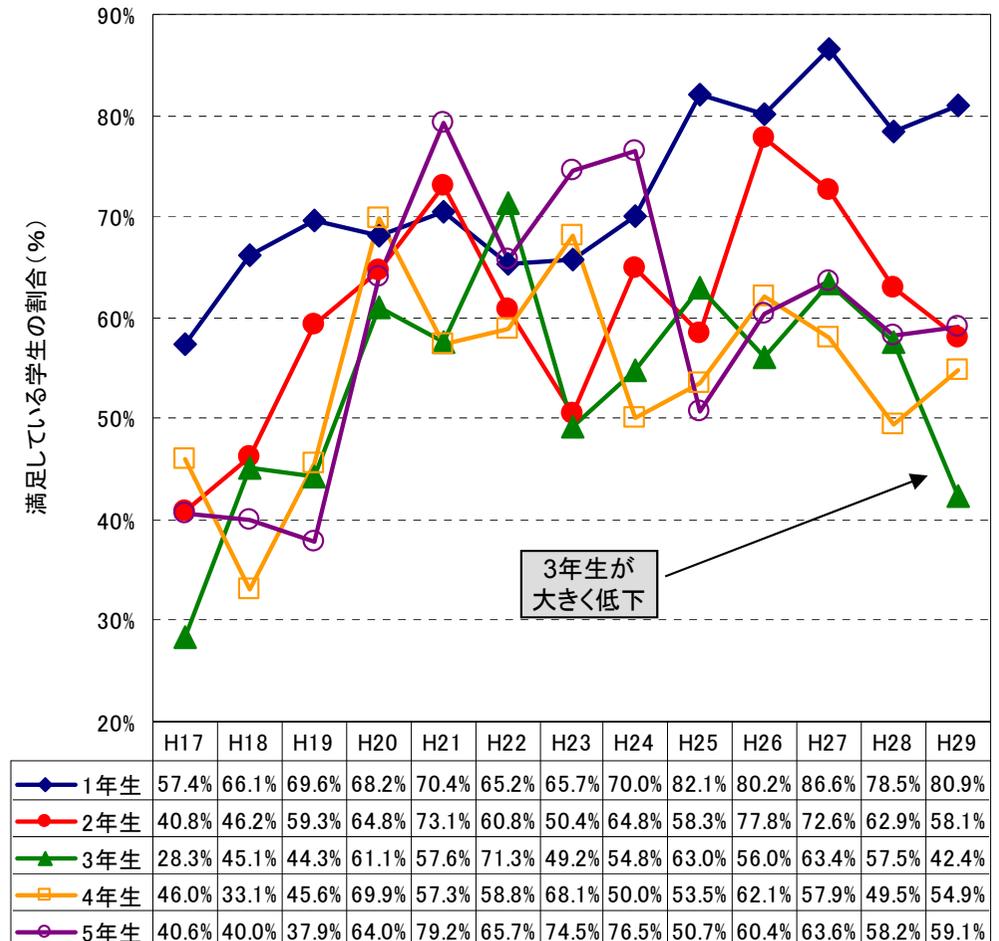
■総合的満足度の学年別比較

- 「総合的満足度」を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で学年別に比較したところ、「1年生」の満足度が最も高く、80.9%が満足と答えていた。特に「そう思う」が42.5%と半数近く、高い満足度となっていた。そして、「2年生」が58.1%、「3年生」が42.4%、「4年生」が54.9%、「5年生」が59.1%となっており、「1年生」から「3年生」にかけては満足度が低下し、「3年生」から「5年生」にかけては満足度が高くなっていった。
- 学年別・年度別に満足しているという回答の合計を比較したところ、「1年生」「4年生」「5年生」は前回を上回っていたが、変化はそれほど大きなものではなかった。一方、「2年生」と「3年生」の満足度は前回を下回り、特に「3年生」は前回から15.1ポイント低下して、H17に次いで、これまでで2番目の低さとなった。

■金沢高専の総合的満足度 学年別比較



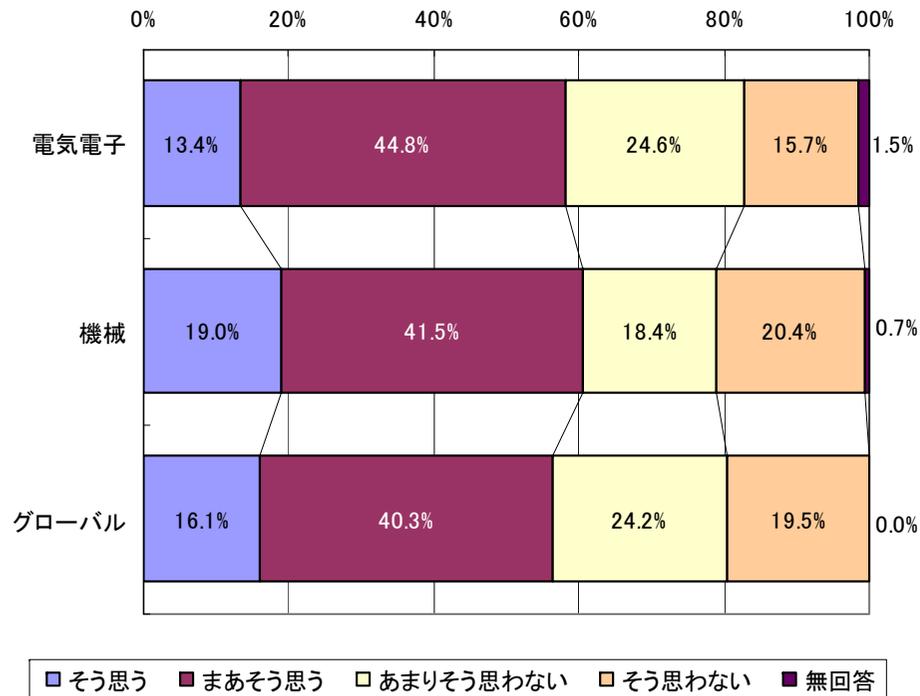
■金沢高専の総合的満足度 学年別・年度別比較



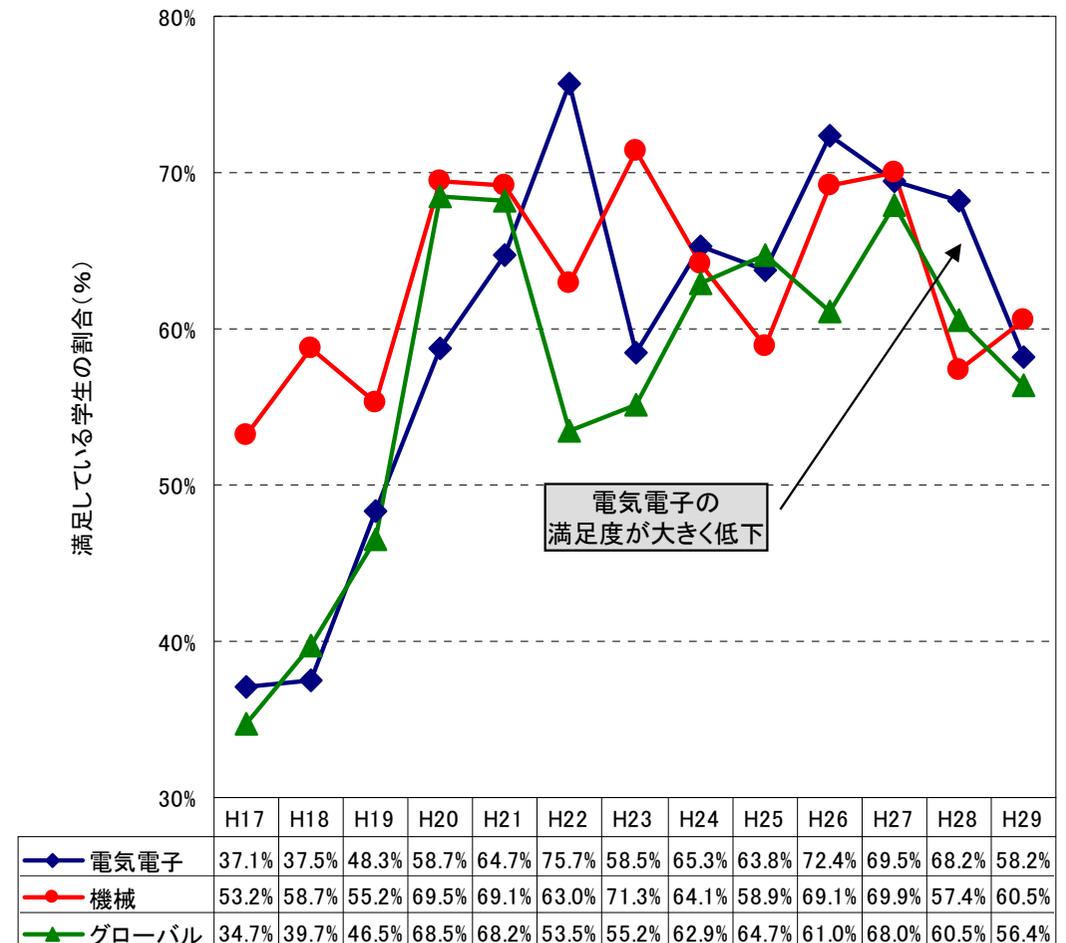
## ■総合的満足度の学科別比較

- 「総合的満足度」を学科別に比較したところ、「機械」の満足度が最も高く60.5%が満足と答えていた。そして、「電気電子」が58.2%、「グローバル」が56.4%であり、学科間の差はそれほど大きくなかった。
- 学科別・年度別の比較を見ると、「機械」は満足という回答が前回より増加していたが、「電気電子」と「グローバル」は減少していた。特に「電気電子」は前回は10.0ポイント下回っており、H20年以降では最も低い満足度となっていた。

### ■金沢高専の総合的満足度 学科別比較(在学生のみ)



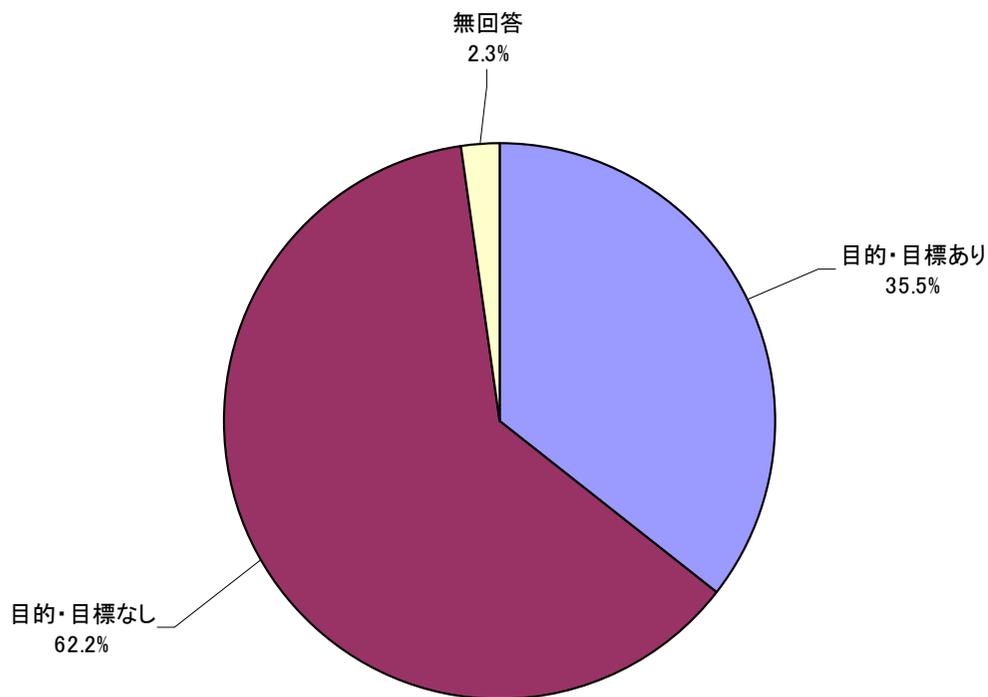
### ■金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較



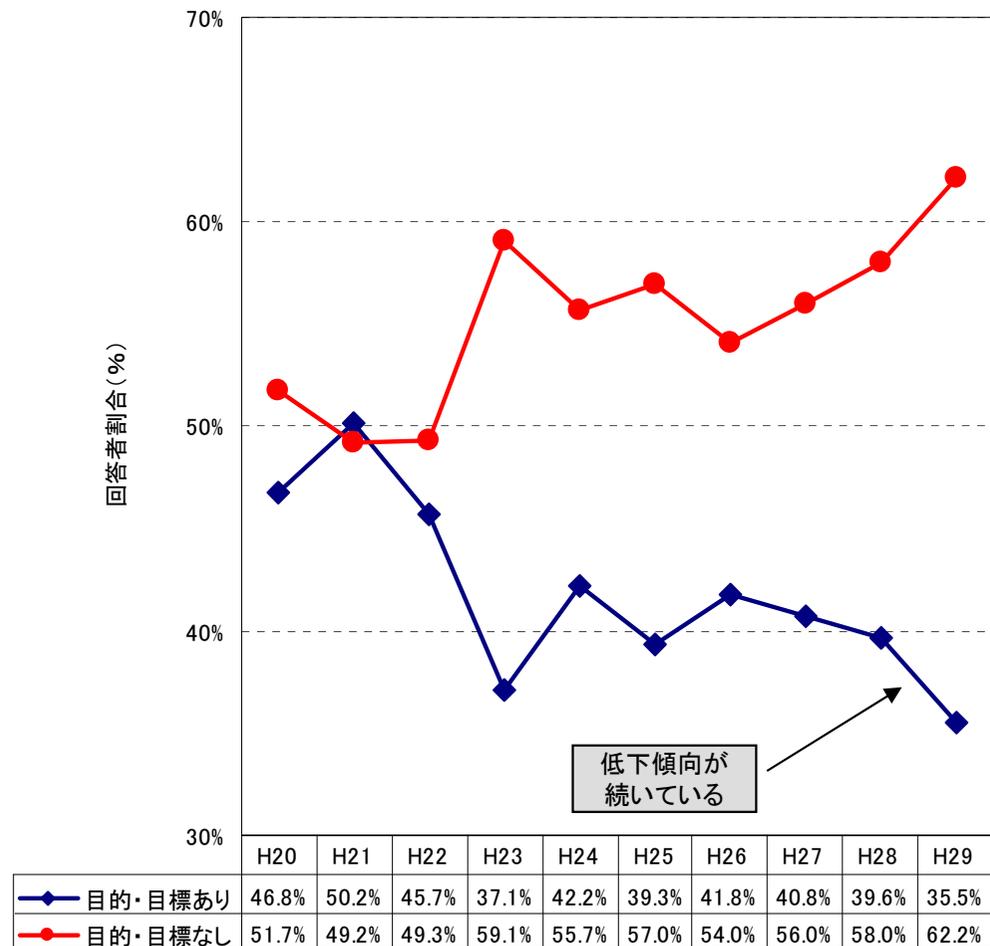
## ■在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」という問いに対しては、「目的・目標あり」が35.5%、「目的・目標なし」が62.2%となり、「目的・目標なし」の方が26.7ポイント多かった。
- 年度別に比較したところ、「目的・目標あり」の割合はH26から減少する傾向が続いており、今回は前回は4.1ポイント下回って、これまでで最も少なくなっていた。

■在学中の「目的・目標」の意識



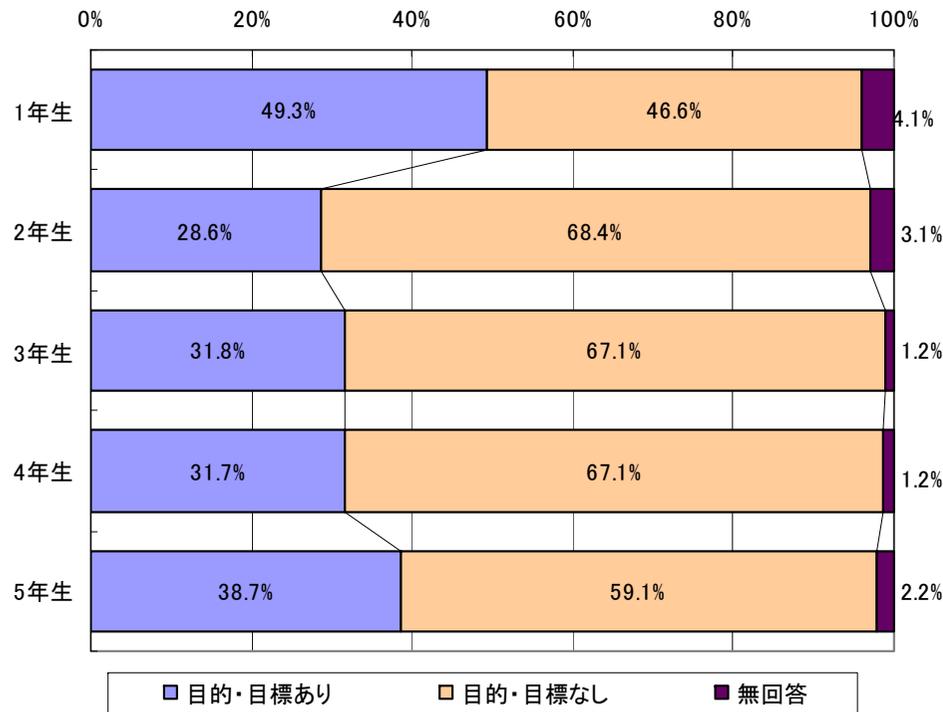
■在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



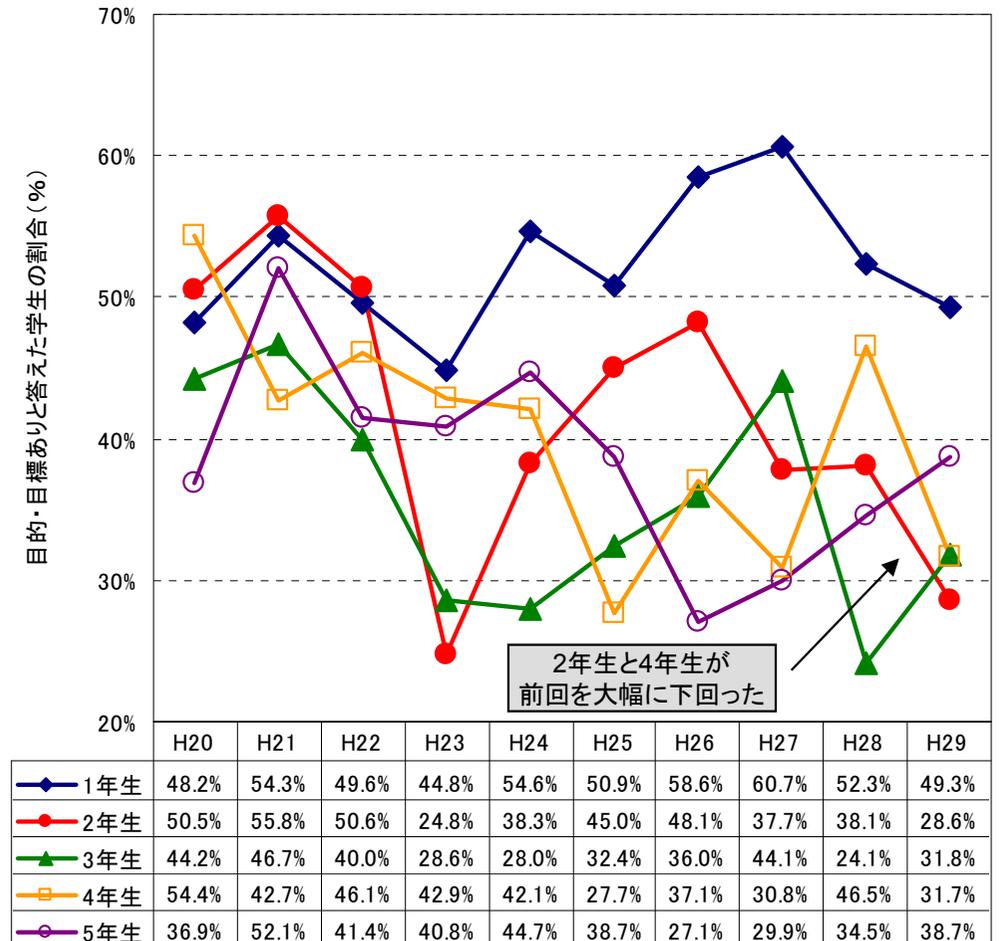
■「目的・目標」の意識の学年別比較

- 「目的・目標あり」の割合を学年別に比較したところ、「1年生」が49.3%で最も多く、ほぼ半数が目的・目標を持って学生生活を送っていることが分かった。しかし、「2年生」では28.6%と一気に減少し、「3年生」から「4年生」は約3割で横這いとなり、「5年生」で38.7%と増加していた。学年との相関関係は見られなかったが、入学してすぐの「1年生」の大きな期待、1年経って「2年生」時での中だるみによる低下、卒業を控えた「5年生」に向けて徐々に「目的・目標」を持つようになってきている実態が見えてきた。
- 学年別・年度別の比較を見ると、「2年生」と「4年生」は前回は大きく下回り、「2年生」は過去2番目の低さ、「4年生」は過去3番目の低さとなった。また、「1年生」もわずかではあるが前回は下回った。一方、「3年生」と「5年生」は前回は上回っており、特に「5年生」はH26から継続的に「目的・目標あり」の割合が増加してきている。

■在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



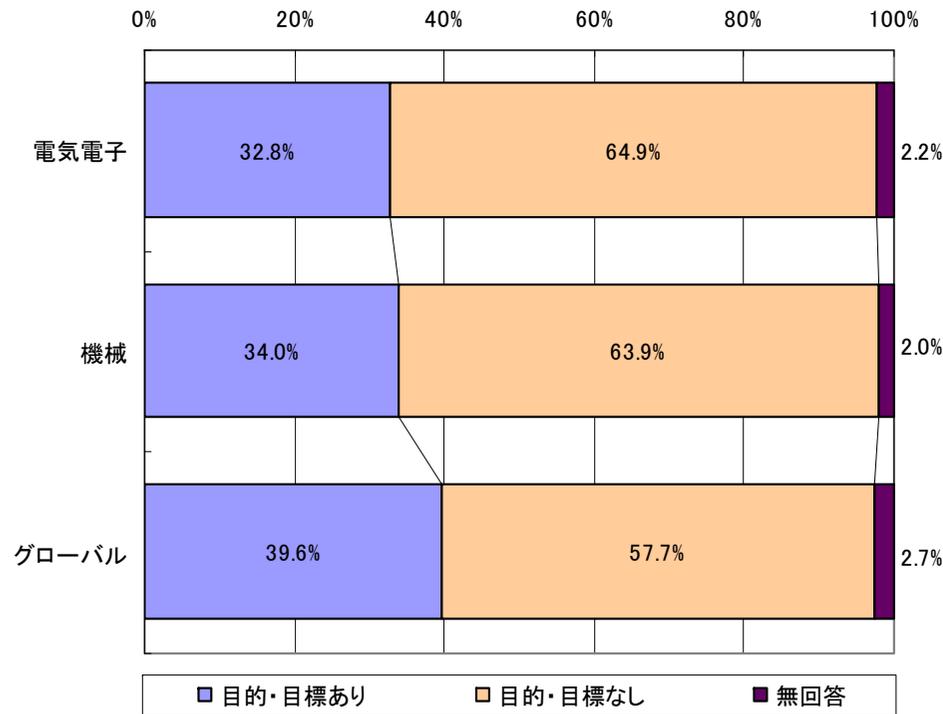
■在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



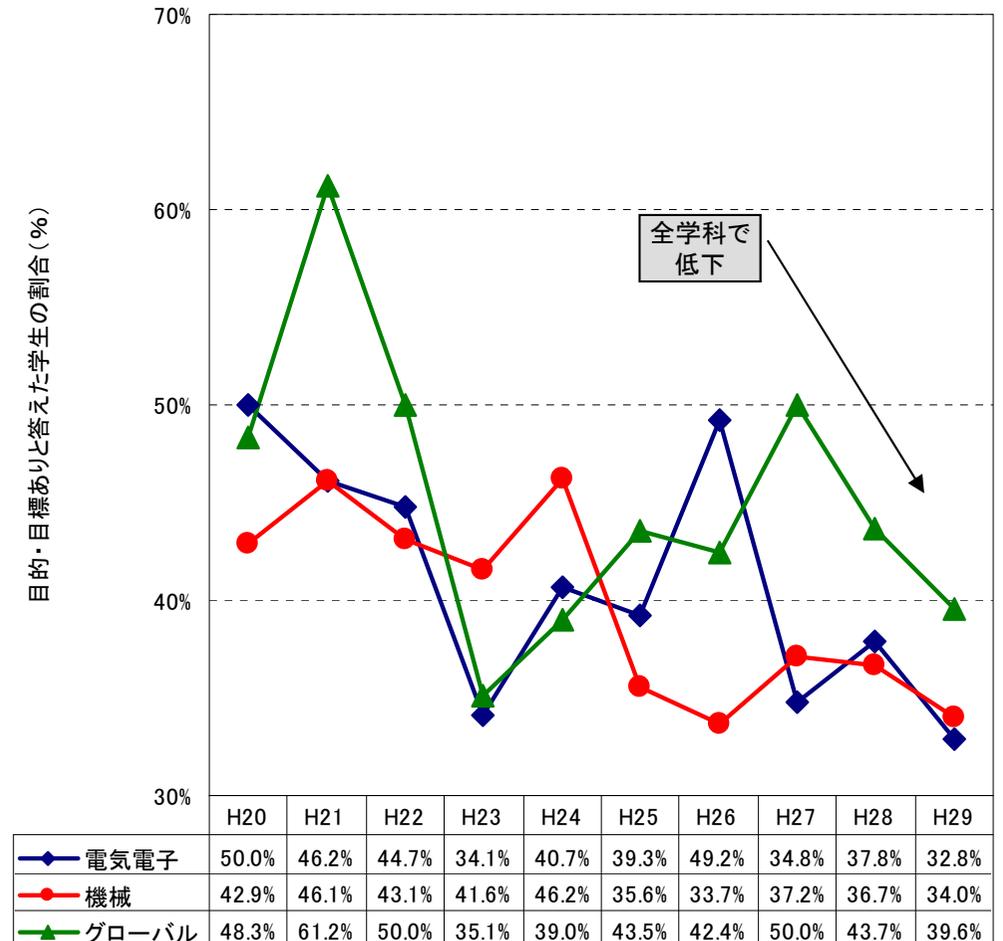
## ■「目的・目標」の意識の学科別比較

- 「目的・目標あり」を学科別に比較したところ、「グローバル」が39.6%と最も多く、「機械」が34.0%、「電気電子」が32.8%と続いており、学科間の差はそれほど大きくなかった。
- 学科別・年度別比較を見ると、すべての学科で前回は下回っており、特に「電気電子」は過去最低、「機械」は過去2番目の低さとなり、「グローバル」もH27から急激に「目的・目標あり」の割合が低下していた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



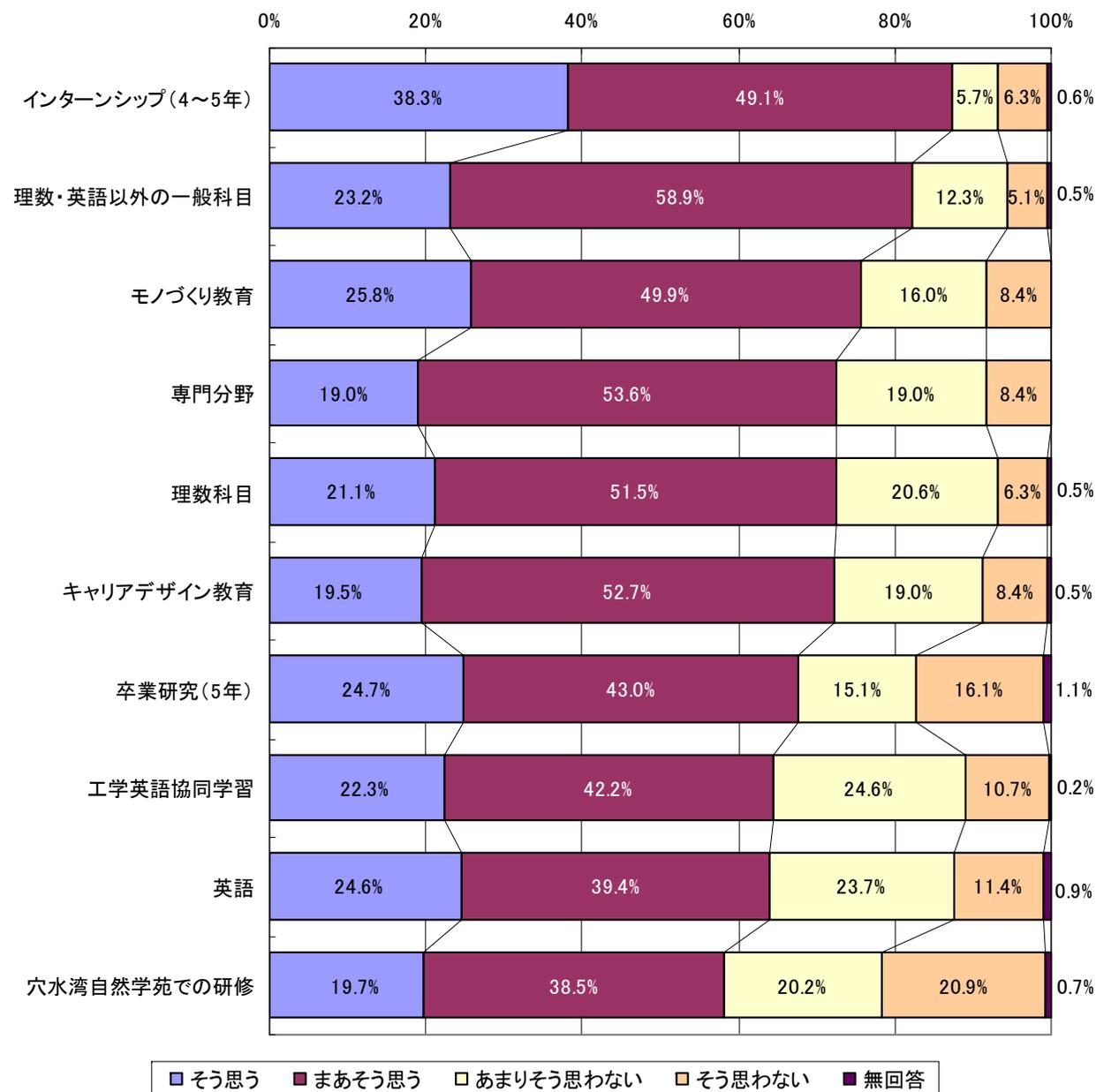
■在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較



## ■授業に対する評価

- 「授業に対する満足度」で、肯定的な意見が最も多かったのは「インターンシップ」の87.4%であった。次いで、「理数・英語以外の一般科目」が82.1%、「モノづくり教育」が75.7%と続いていた。「そう思う」という強く満足している回答だけを見ると、「インターンシップ」の38.3%が突出していた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」の58.2%であり、「インターンシップ」との差は29.2ポイントであった。そして、「英語」の64.0%、「工学英語協同学習」の64.5%などの満足度が低めであった。

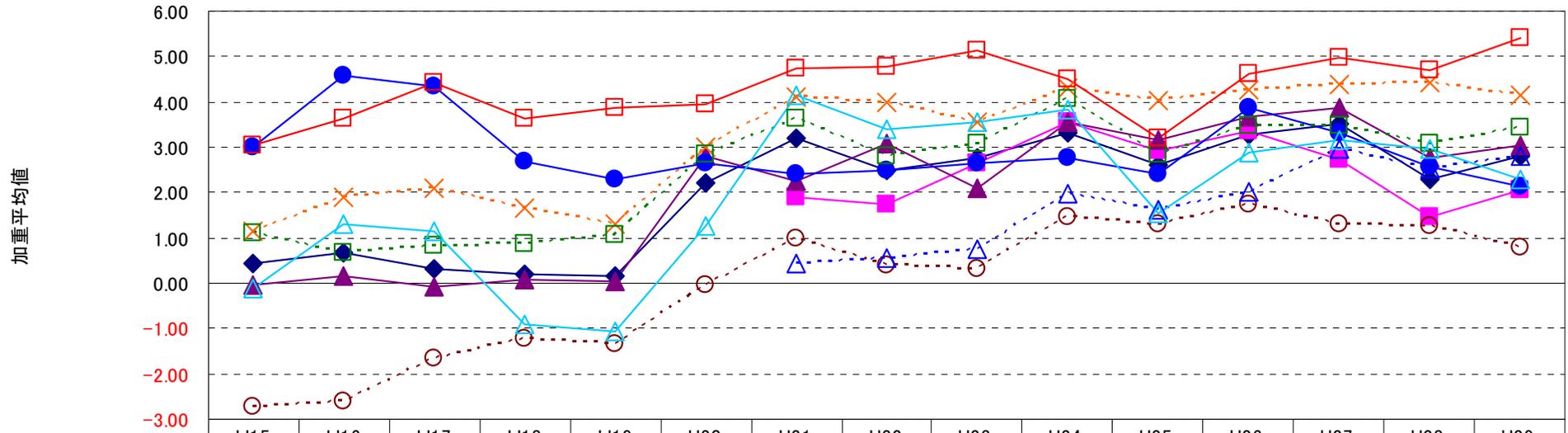
### ■授業に対する満足度(在学生のみ)



■授業に対する評価の年度別比較

- 授業評価の年度別比較を見ると、「英語」「理数・英語以外の一般科目」「穴水湾自然学苑での研修」「卒業研究」の4科目は前回を下回った。特に「英語」「穴水湾自然学苑での研修」の評価はH26から継続的に低下していた。
- 上記の4科目以外はすべて前回を上回っていたが、いずれもそれほど大きな変化ではなかった。ただし、「インターンシップ」は過去最高の評価となっていた。

■授業評価 年度別比較

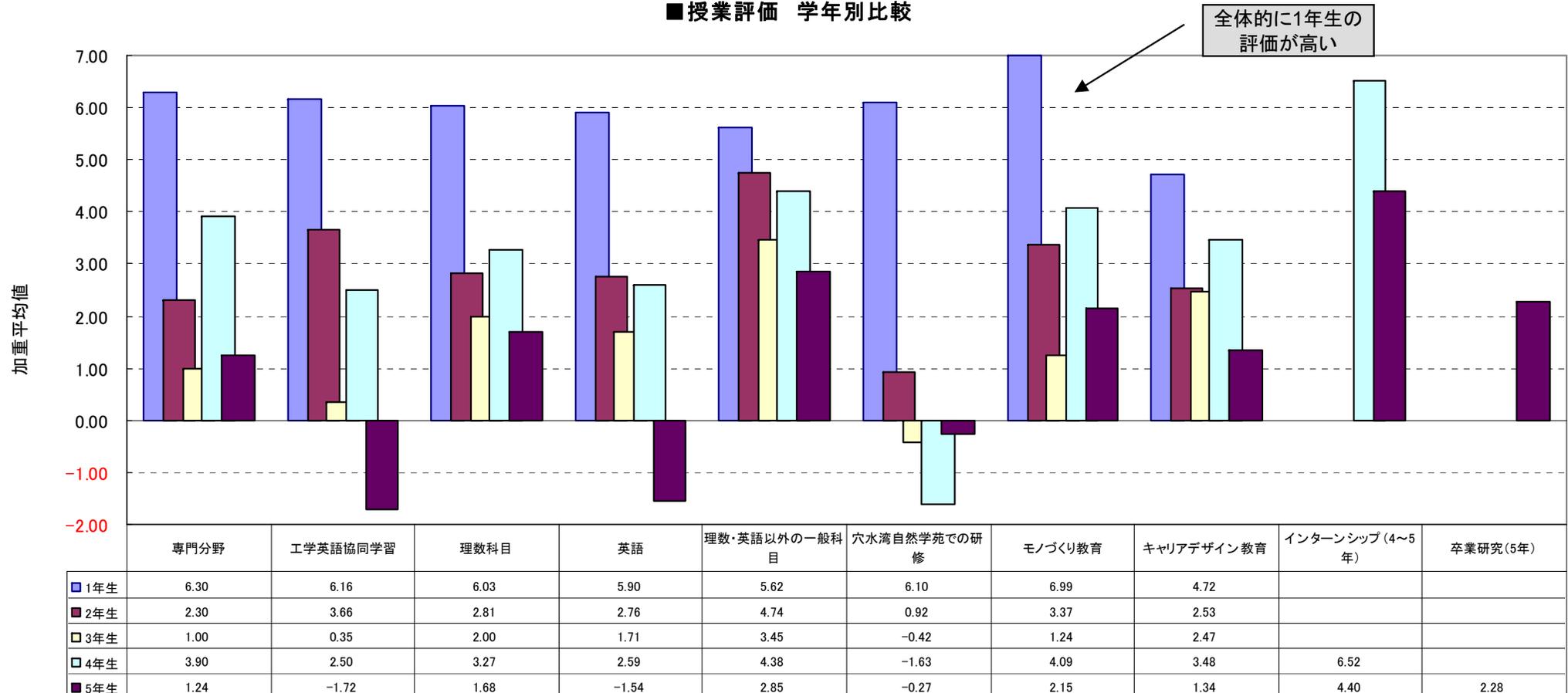


	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
◆ 専門分野	0.43	0.65	0.30	0.18	0.14	2.21	3.18	2.51	2.75	3.32	2.60	3.29	3.53	2.27	2.80
■ 工学英語協同学習							1.89	1.72	2.64	3.56	2.91	3.35	2.73	1.46	2.05
▲ 理数科目	-0.03	0.14	-0.09	0.10	0.04	2.80	2.26	3.08	2.10	3.56	3.18	3.65	3.86	2.77	3.04
● 英語	2.99	4.59	4.33	2.70	2.30	2.65	2.39	2.47	2.63	2.77	2.39	3.88	3.33	2.56	2.13
○× 理数・英語以外の一般科目	1.14	1.90	2.10	1.64	1.32	2.99	4.10	3.99	3.54	4.32	4.04	4.26	4.37	4.41	4.16
○ 穴水湾自然学苑での研修	-2.72	-2.62	-1.64	-1.23	-1.35	-0.04	1.00	0.38	0.33	1.46	1.31	1.73	1.29	1.25	0.81
■ モノづくり教育	1.13	0.68	0.82	0.88	1.06	2.85	3.63	2.80	3.10	4.08	2.86	3.48	3.46	3.08	3.43
△ キャリアデザイン教育							0.42	0.54	0.75	1.98	1.60	2.00	2.95	2.54	2.81
□ インターンシップ	3.03	3.63	4.41	3.62	3.85	3.95	4.74	4.78	5.13	4.50	3.21	4.62	4.98	4.71	5.40
△ 卒業研究	-0.12	1.31	1.13	-0.91	-1.06	1.26	4.15	3.38	3.56	3.82	1.53	2.86	3.18	2.95	2.28

## ■授業に対する評価の学年別比較

- 授業評価を学年別に比較したところ、「1年生」が受講している科目はすべて「1年生」の評価が最も高かった。特に「穴水湾自然学苑での研修」は他の学年との差が大きく、「モノづくり教育」の評価も非常に高かった。
- 「1年生」に次いで高かったのは「4年生」で、特に「専門分野」「理数科目」「モノづくり教育」「キャリアデザイン教育」の評価の高さが目立っていた。また、「2年生」も「工学英語協同学習」「英語」「理数・英語以外の一般科目」「穴水湾自然学苑での研修」が「1年生」に次ぐ高さであった。
- スコアがマイナスとなっているのは不満足の方が多かった科目ということであるが、「工学英語協同学習」と「英語」は「5年生」でマイナス評価となっており、「穴水湾自然学苑での研修」は「3年生」以上のすべての学年でマイナス評価となっていた。
- 「インターンシップ」は「4年生」と「5年生」に聞いているが、いずれも高い評価であり、「5年生」の「卒業研究」もマイナスにはなっていなかった。

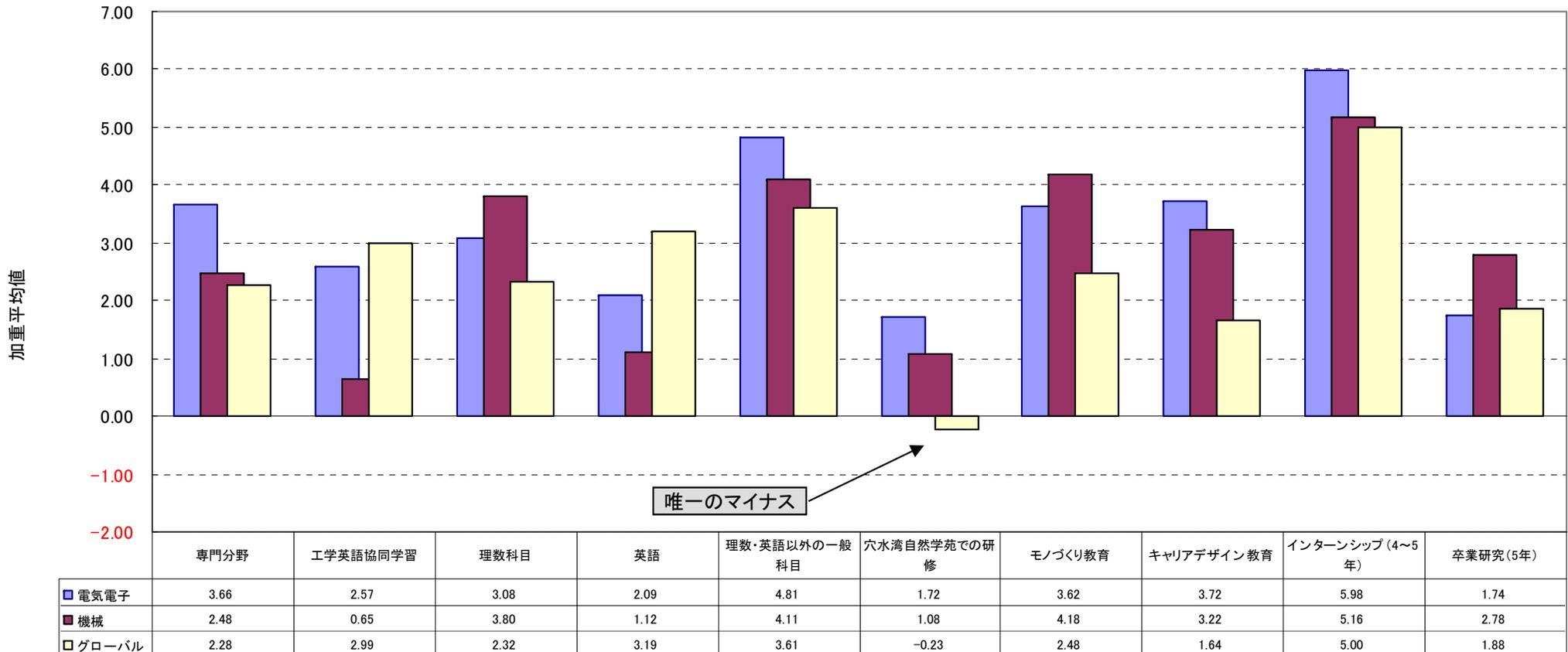
■授業評価 学年別比較



### ■授業に対する評価の学科別比較

- 授業評価の学科間の差はそれほど大きくなく、特定の学科が全体的に高かったり、低かったりという特徴は見られなかった。
- 「電気電子」は「専門分野」「理数・英数以外の一般科目」「穴水湾自然学苑での研修」「キャリアデザイン教育」「インターンシップ」の満足度が他の学科よりやや高く、特に目立って低いものは見られなかった。
- 「機械」は「理数科目」「モノづくり教育」「卒業研究」の満足度が高かったが、「工学英語協同学習」「英語」の低さが目立っており、学科の特徴がうかがえるような結果となっていた。
- 「グローバル」は「工学英語協同学習」「英語」が高かったが、その他のほとんどの科目は3学科の中で最も低かった。特に「穴水湾自然学苑での研修」「モノづくり教育」「キャリアデザイン教育」の低さが目立っており、中でも「穴水湾自然学苑での研修」の評価は唯一のマイナススコアとなっていた。

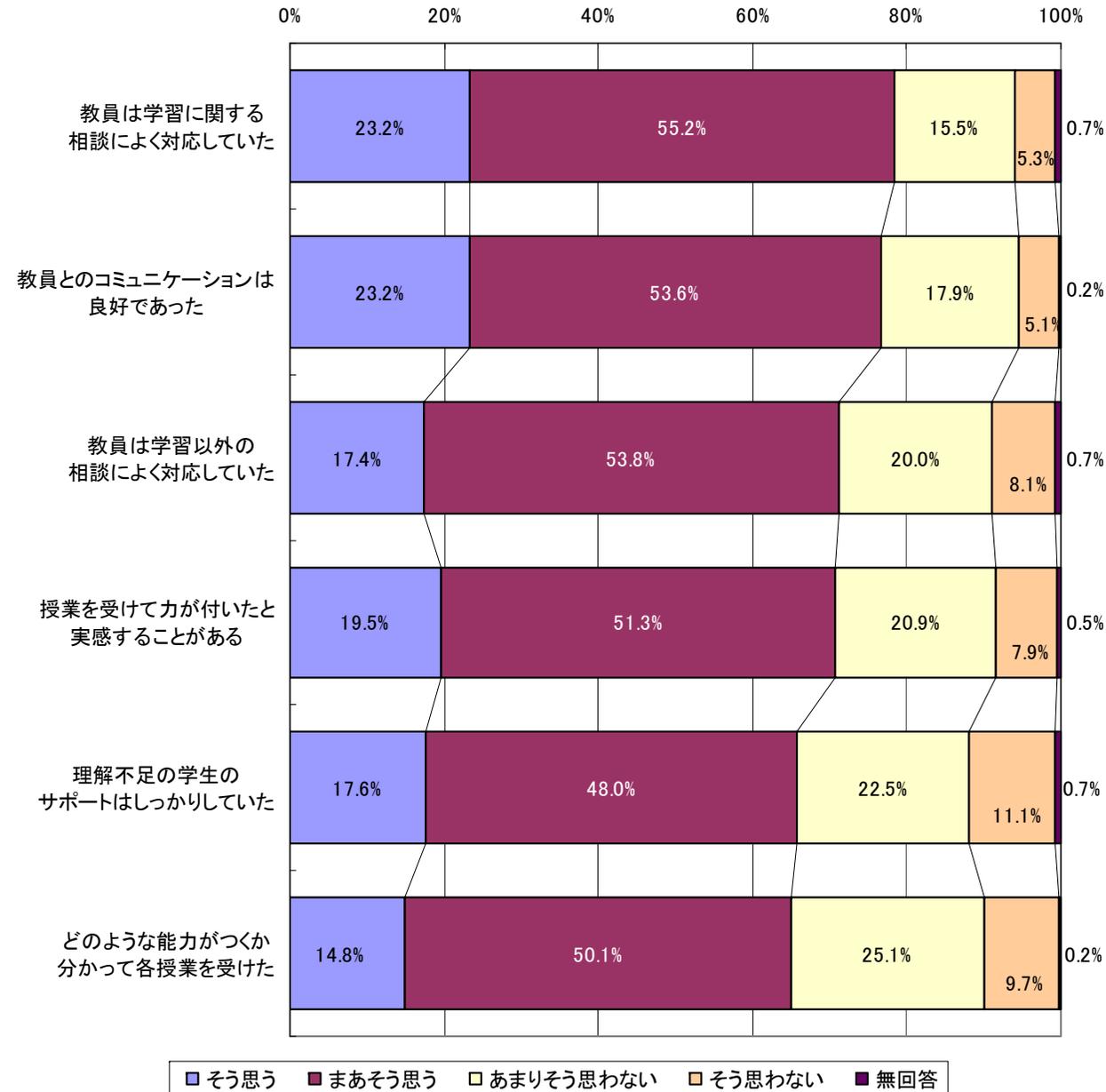
■授業評価 学科別比較



## ■教員および学習支援の満足度

- 「教員および学習支援」で最も満足度が高かったのは「教員は学習に関する相談によく対応していた」であり、78.4%が満足と答えていた。次いで「教員とのコミュニケーションは良好であった」が76.8%で、この2項目では「そう思う」が23.2%と同じであった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」の64.9%で、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」が65.6%で続いていた。

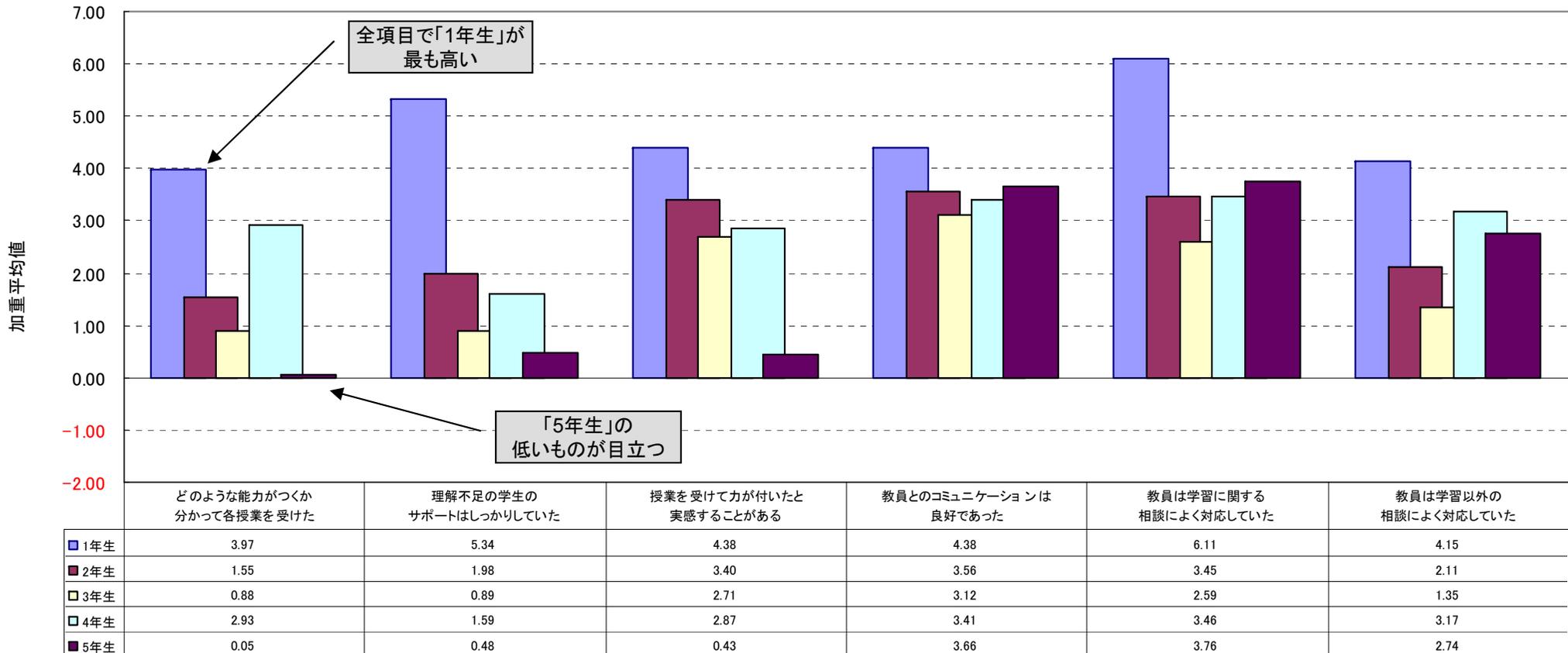
## ■教員および学習支援の満足度（在学生のみ）



### ■教員および学習支援の満足度の学年別比較

- 学年別に比較したところ、全項目で「1年生」の評価が最も高かった。特に「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」「教員は学習に関する相談によく対応していた」の高さが目立っており、学習相談やサポートに満足しているようであった。
- 一方、低い評価が目立っていたのは「5年生」であり、特に「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」「授業を受けて力が付いたと実感することがある」の低さが目立っていた。ただし、「教員とのコミュニケーションは良好であった」「教員は学習に関する相談によく対応していた」は「1年生」に次ぐ高さであり、教員との関係性は良さそうであった。
- 上記以外で目立っていたのは「4年生」であり、いくつか高いものが見られたが、「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」は「1年生」に次ぐ高さであり、授業に対する姿勢がうかがえるものであった。また、「3年生」は「教員は学習に関する相談によく対応していた」と「教員は学習以外の相談によく対応していた」が低く、教員との関係性がうかがえるものとなっていた。

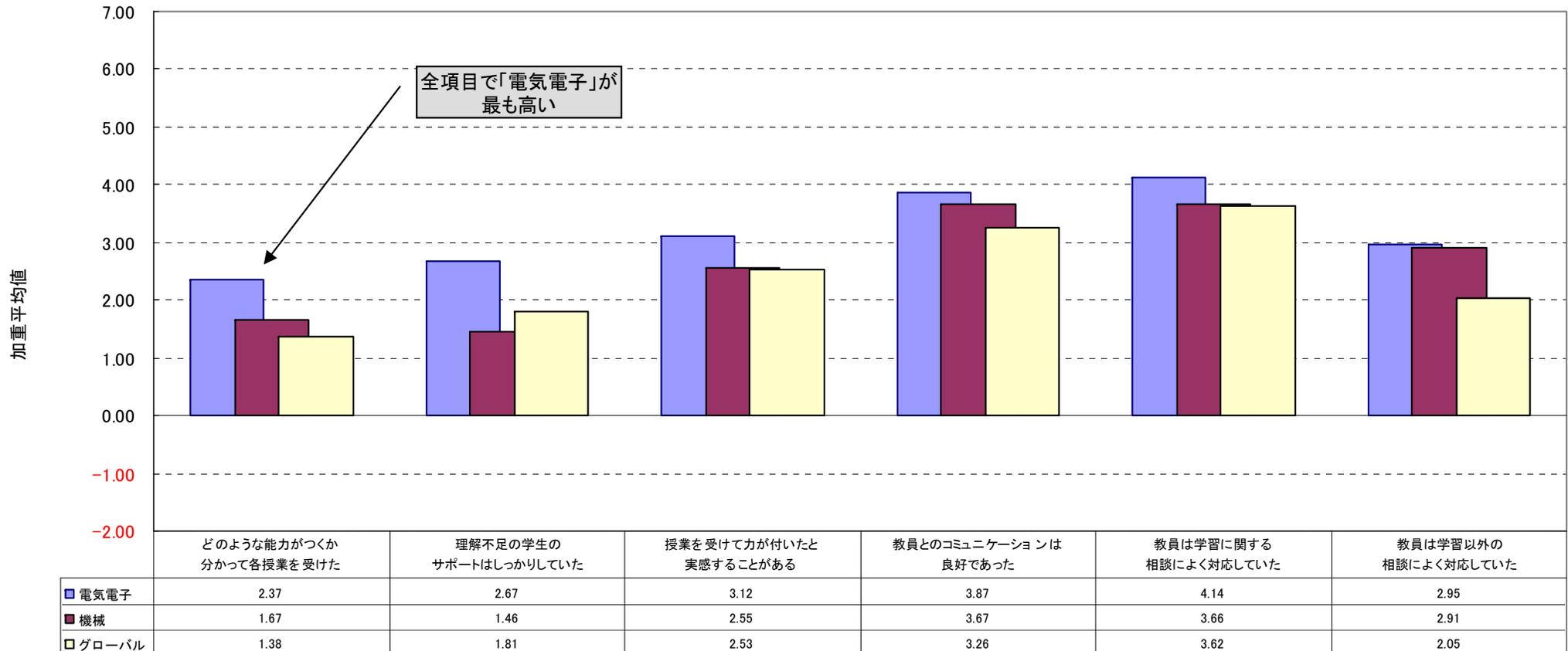
■教員および学習支援評価 学年別比較



### ■教員および学習支援の満足度の学科別比較

- 学科別に教員および学習支援の満足度を比較すると、学科間の差は全体的に少ないものの、全項目で「電気電子」の満足度が最も高かった。特に「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」と「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」の高さがやや目立っていた。
- 「機械」はほとんどの項目で「電気電子」に次ぐ高さであったが、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」の満足度は最も低かった。「グローバル」はこの項目を除くすべての項目で最も満足度が低かった。特に「グローバル」は、「教員は学習以外の相談によく対応していた」の低さがやや目立っており、学習に関する教員のサポートや相談への不満は少ないが、学習以外の面でやや不満が大きいように思われる。

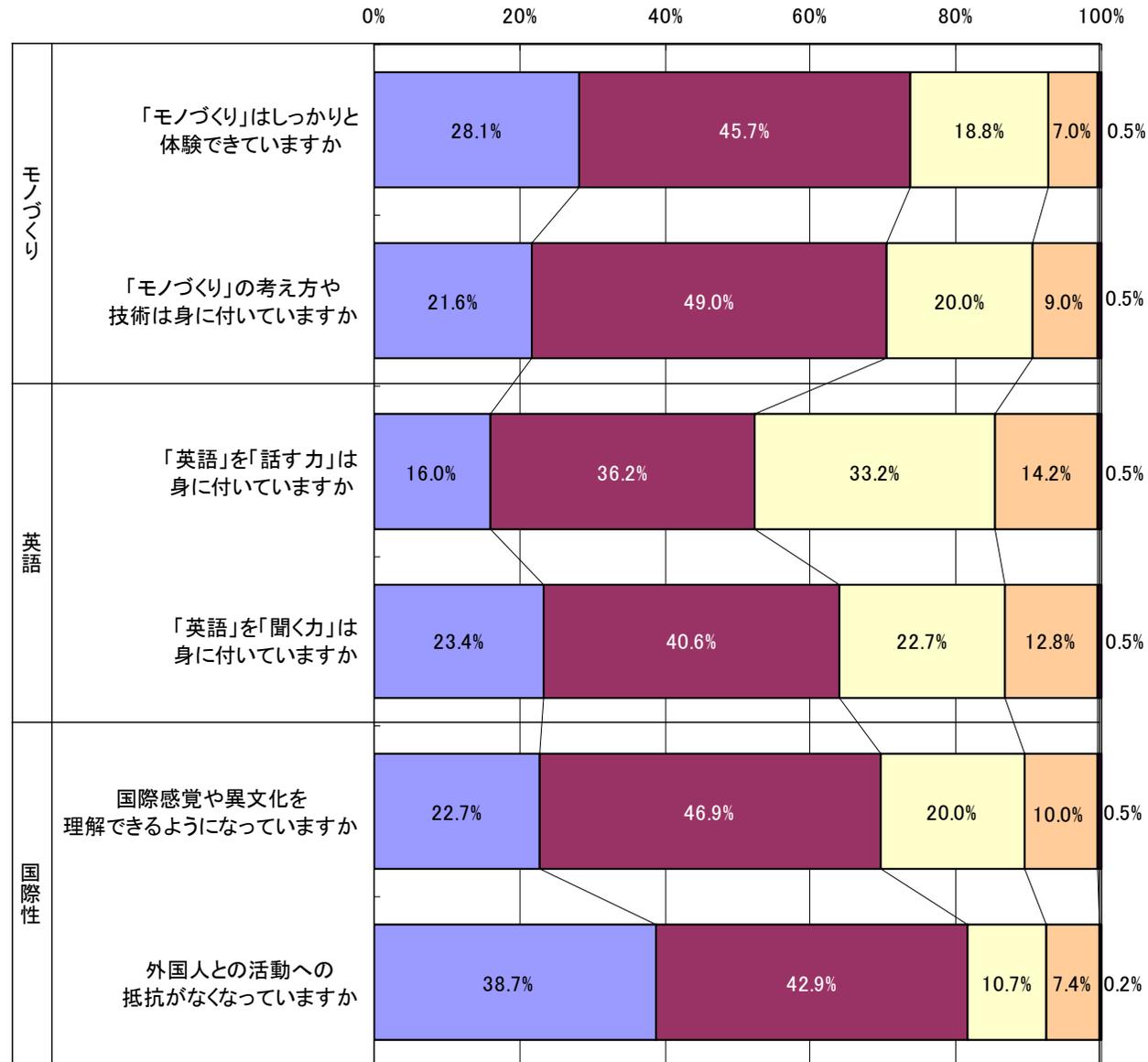
■教員および学習支援評価 学科別比較



## ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の3分野の評価を確認した。
- 「モノづくりはしっかりと体験できていますか」に対しては、肯定的な意見が73.8%、「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」では70.6%であり、「モノづくり」は7割以上が体験できており、身につけているようであった。
- 「英語」の「話す力は身に付いていますか」に対する肯定的な意見は52.2%であったが、「聞く力」では64.0%であり、「聞く力」の方に自信を持っているようであった。
- 「国際性」の「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」では肯定的な意見が69.6%、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」は81.6%であった。特に「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」では「そう思う」が38.7%が目立って多く、外国人への抵抗が非常に少ない様子がうかがえた。

### ■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価（在学生のみ）

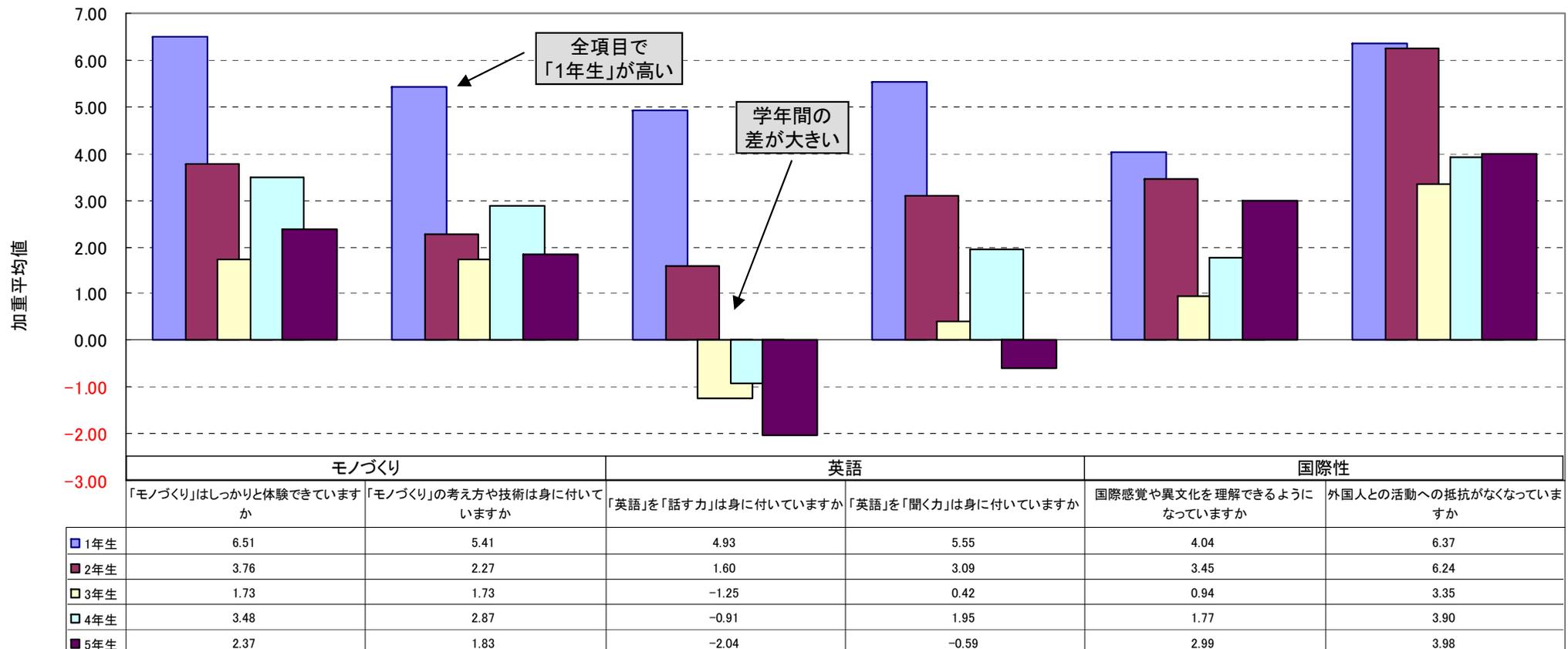


■ そう思う ■ まあそう思う □ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の学年別比較

- 「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価を学年別に比較すると、全項目で「1年生」の評価が最も高かった。特に「モノづくり」に関する2項目、「英語」に関する2項目の高さは目立っており、「1年生」が満足するポイントが見える結果となっていた。
- 一方、全体的に低めであったのは「3年生」であり、「モノづくり」の2項目、「国際性」の2項目の評価は学年の中で最も低かった。そして、「英語」の2項目では「5年生」の評価が最も低かった。
- 項目ごとの特徴を見ると、「英語」の「話す力」は「3年生」以上の高学年でマイナススコアとなっていた。そして、「聞く力」は「5年生」がマイナススコアとなっており、苦手意識がうかがえた。「国際性」では「2年生」が「1年生」と変わらない高さであり、低学年が苦手意識を持っていないようであった。

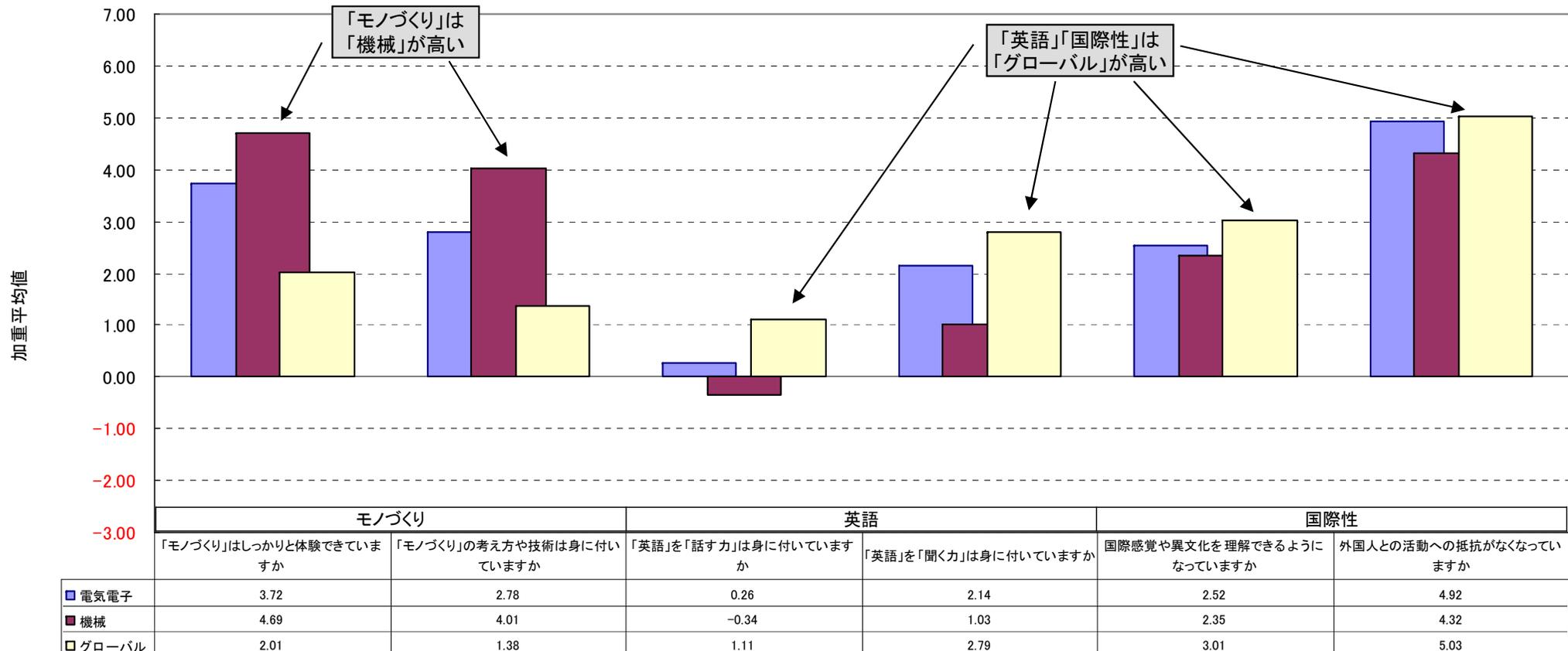
### ■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 学年別比較



## ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の学科別比較

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の学科別比較を見ると、「モノづくり」の2項目は「機械」の評価が高く、「英語」「国際性」の項目では「グローバル」がやや高めであった。
- 「モノづくり」の2項目は「機械」が目立って高く、次いで、「電気電子」「グローバル」の順になっており、学科の特徴がよく分かる結果となっていた。
- 「モノづくり」が低かった「グローバル」は一方で、「英語」と「国際性」に関する4項目すべてで最も評価が高かった。「グローバル」の「英語」は2項目共に高さが目立っていたが、「国際性」の「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」は「電気電子」とあまり変わらない評価となっていた。そして、これらの4項目はすべて「機械」が最も低く、「英語を話す力」はマイナススコアであった。

### ■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 学科別比較

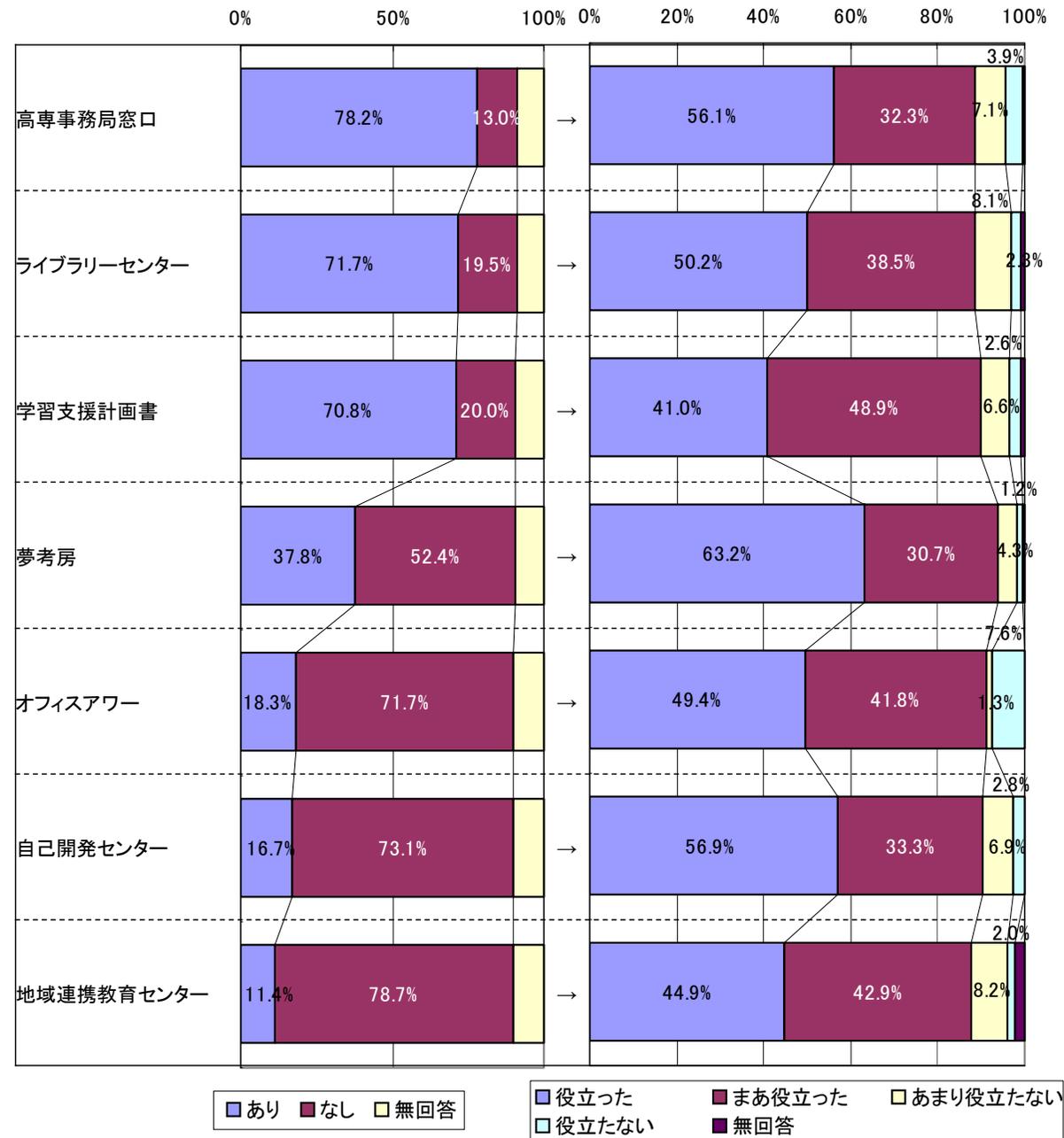


## ■学生サポートの満足度

- 学生サポートは利用の有無と、各サポートの利用者に満足度を聞いており、グラフは利用率によってソートしている。
- 最も利用率が高かったのは「高専事務局窓口」の78.2%であり、「ライブラリーセンター」が71.7%、「学習支援計画書」が70.8%で続いていた。
- 利用率が最も低かったのは「地域連携教育センター」の11.4%であり、「自己開発センター」が16.7%、「オフィスアワー」が18.3%となっていた。
- 利用者の満足度を「役に立った」と「まあ役に立った」の合計で見るといずれも8割を超えており、満足度は非常に高いと言える。中でも「夢考房」は93.9%、「オフィスアワー」は91.2%、「自己開発センター」は90.2%となっており、この3つは満足度が9割を超えていた。特に「夢考房」は「役に立った」という回答が63.2%と非常に多く、利用者の多くが強く満足している様子がうかがえた。

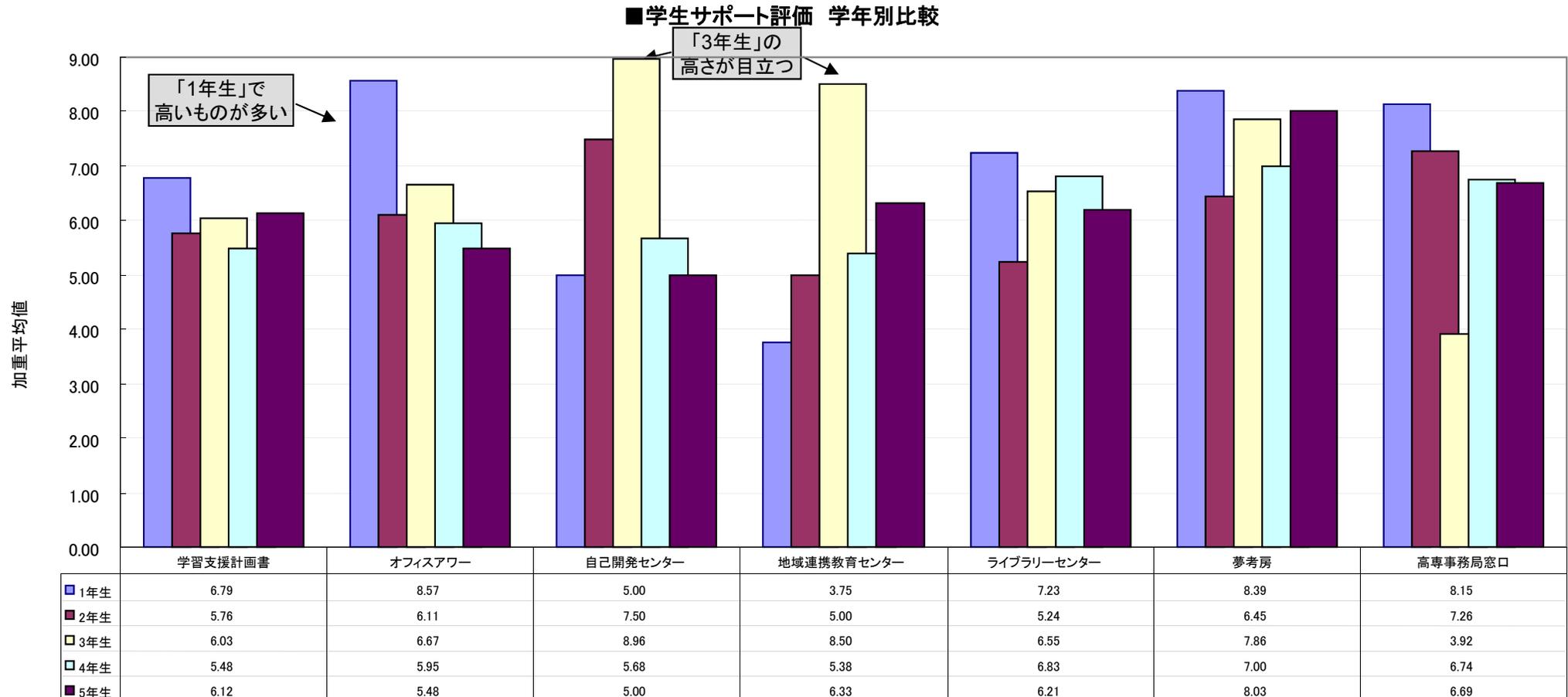
## ■学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

(※満足度は利用者からの結果)



### ■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の学年別比較

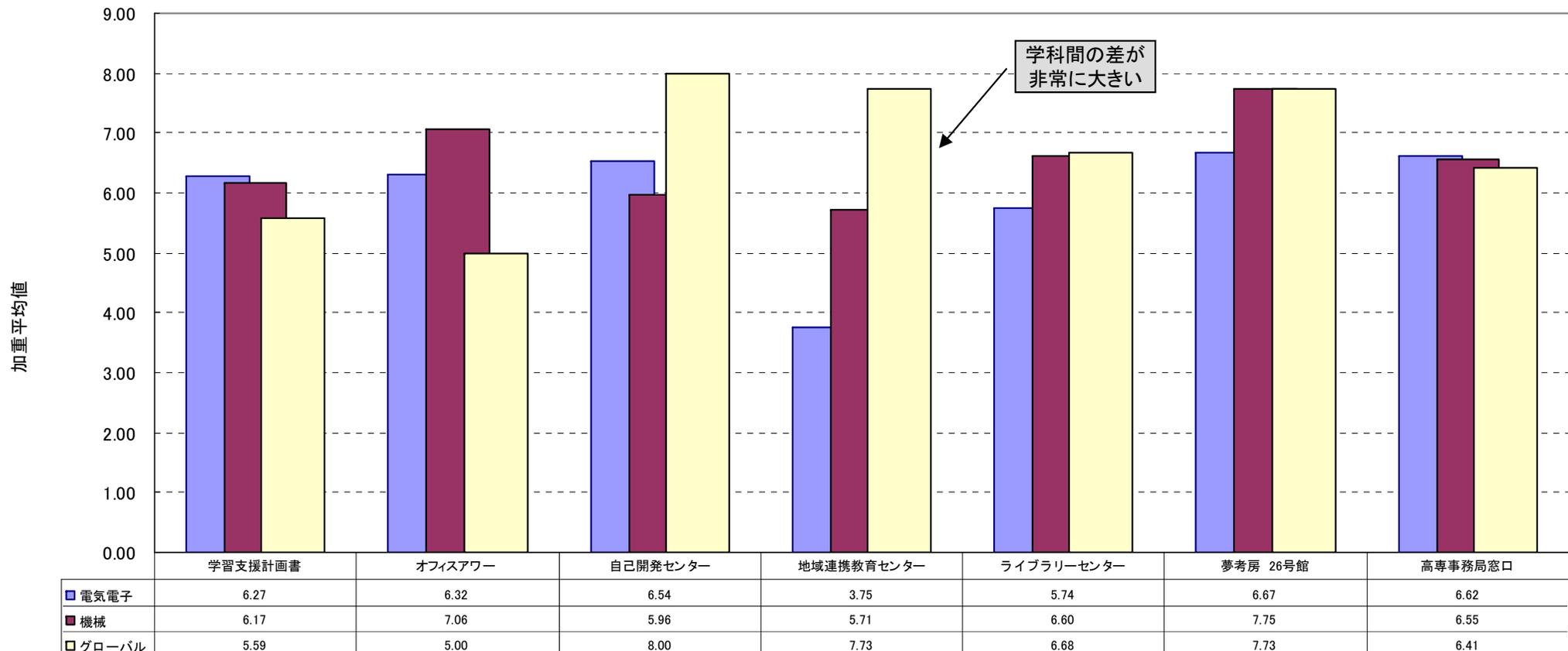
- 学生サポート満足度の学年別比較を見ると、「1年生」で高いものが多かった。「1年生」は特に「オフィスアワー」の高さが目立っており、積極的に活用している様子がうかがえる。しかし、「自己開発センター」と「地域連携教育センター」の満足度が非常に低く、これらはあまり活用できていないようであった。
- 「1年生」以外で目立っていたのは「3年生」で、「1年生」が低かった「自己開発センター」と「地域連携教育センター」を非常に高く評価しており、積極的に活用している様子がうかがえた。そして、「3年生」は「高専事務局窓口」の評価が非常に低い点も特徴的であった。
- 他の学年を見ると、「1年生」が高く評価している「ライブラリーセンター」と「夢考房」は、「2年生」の評価が低かった。
- 学年との相関関係で明らかな項目はないが、「オフィスアワー」と「自己開発センター」は「3年生」「4年生」「5年生」と、学年が上がるにつれて下がっていた。



## ■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学生サポートの満足度を学科別に比較したところ、一部を除いて学科間の差は少なかった。
- 学科間の差が大きかったのは「地域連携教育センター」であり、「グローバル」の満足度が非常に高く、「電気電子」が非常に低いという特徴が見られた。「グローバル」は「自己開発センター」の満足度も非常に高かったが、「オフィスアワー」は目立って低かった。
- 上記以外の項目は学科間の差が小さかったが、「ライブラリーセンター」と「夢考房 26号館」は「電気電子」の満足度がやや低めとなっていた。

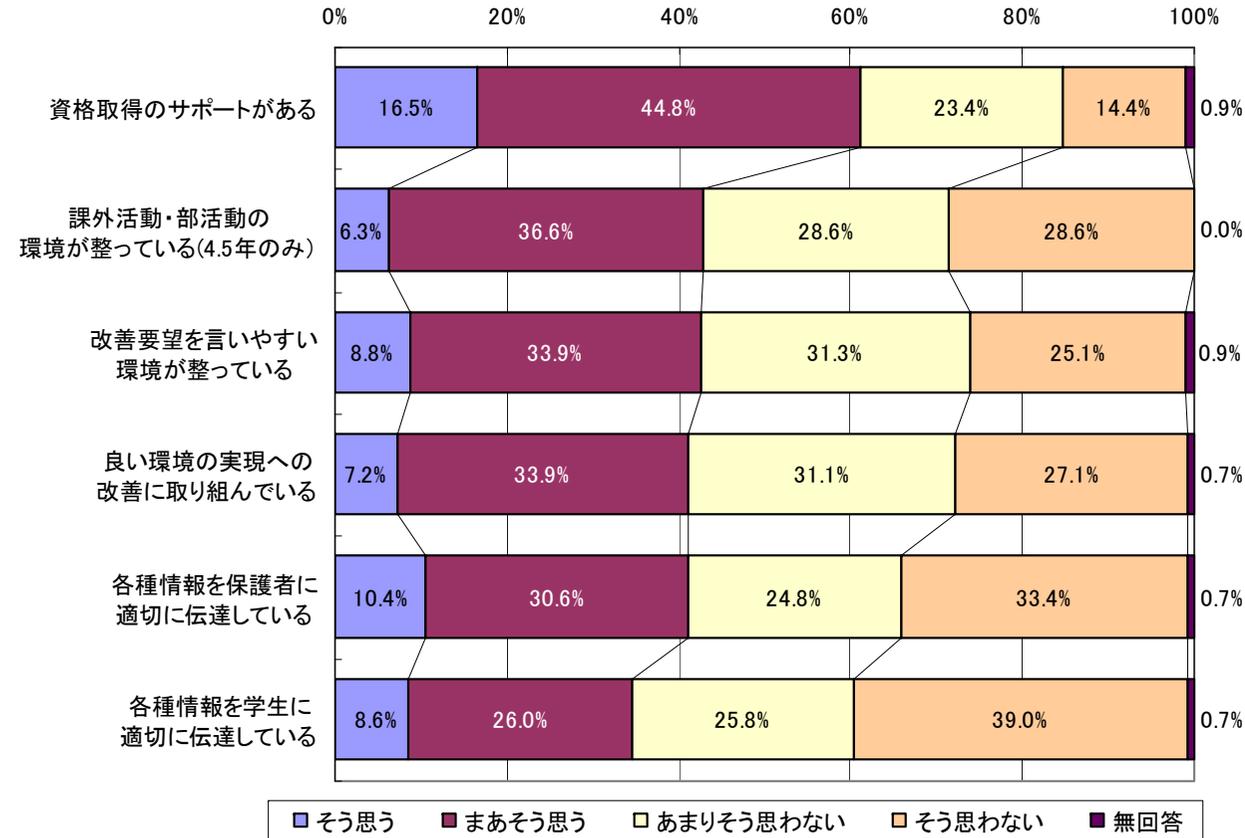
### ■ 学生サポート評価 学科別比較



## ■学校の取り組み姿勢の評価

- 学校の取り組み姿勢に関して、肯定的な意見が最も多かったのは「資格取得のサポートがある」で、61.3%が肯定的な意見であり、6項目の中で唯一、5割を超えていた。
- 上記に次いで、4年生と5年生のみに聞いた「課外活動・部活動の環境が整っている」が42.9%、「改善要望を言いやすい環境が整っている」が42.7%と続いており、この2項目にはほとんど差がなかった。
- 一方、最も評価が低かったのは「各種情報を学生に適切に伝達している」の34.6%で、「そう思わない」という回答が39.0%あり、否定的な意見の合計は6割を超えていた。

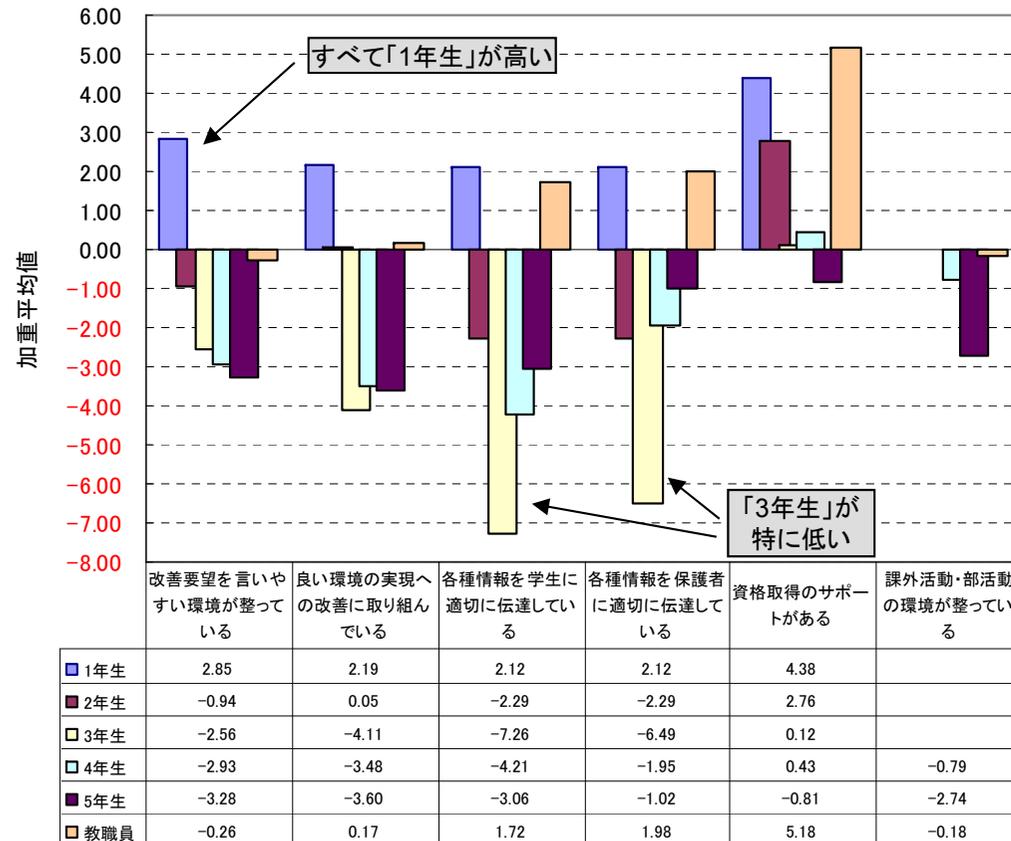
## ■学校の取り組み姿勢の評価（在学生のみ）



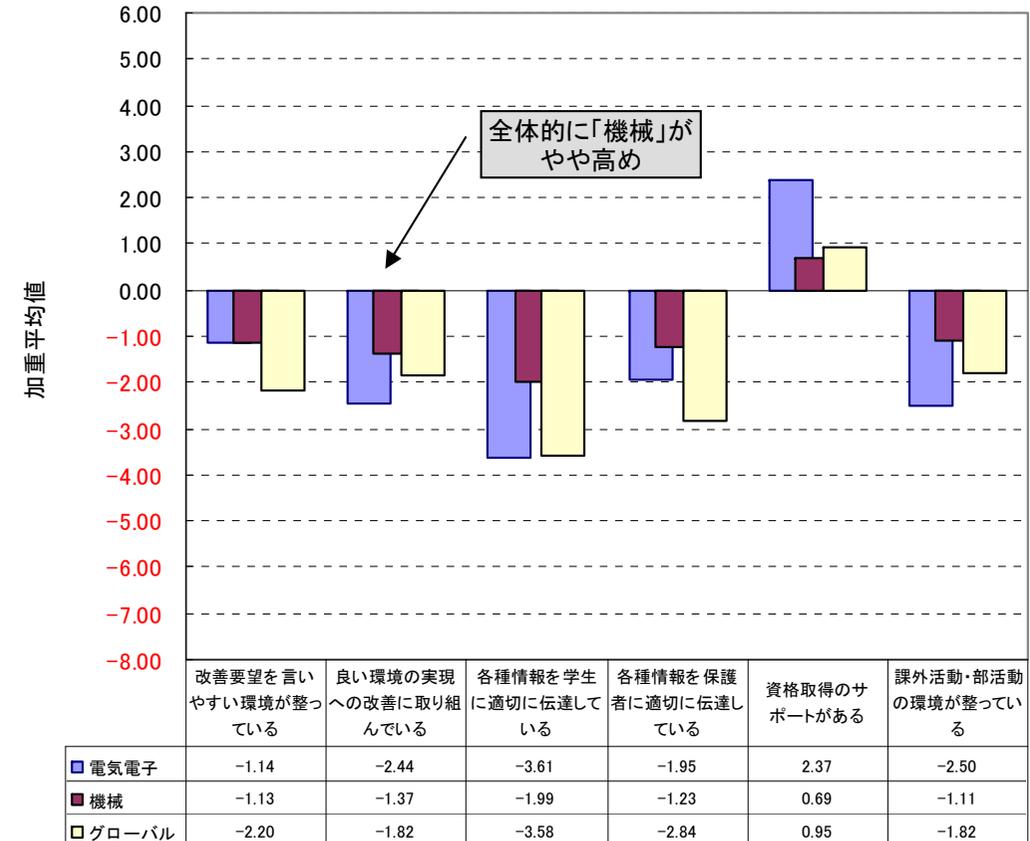
## ■学校の取り組み姿勢の評価の学年別比較、学科別比較

- 学校の取り組み姿勢については教職員にも聞いているが、学年別比較だけを見ると、全項目で「1年生」の評価が高く、「1年生」以外は多くの項目でマイナススコアとなっており、大きな不満を持っている様子がうかがえた。特に「各種情報を学生に適切に伝達している」「各種情報を保護者に適切に伝達している」は「3年生」の低さが目立っていた。
- 「教職員」の評価も、「改善要望を言いやすい環境が整っている」と「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」「課外活動・部活動の環境が整っている」のスコアはほぼゼロとなっており、賛否が半々になっているようであった。
- 学科別の比較では全体的に「機械」がやや高めとなっていたが、「資格取得のサポートがある」はわずかな差ではあるが最も低かった。
- 「電気電子」と「グローバル」の差は小さく、大きな特徴は見られなかったが、「電気電子」の「資格取得のサポートがある」の満足度が高い点が目立っていた。

■学校の取り組み姿勢の評価 学年別比較(教職員も含む)



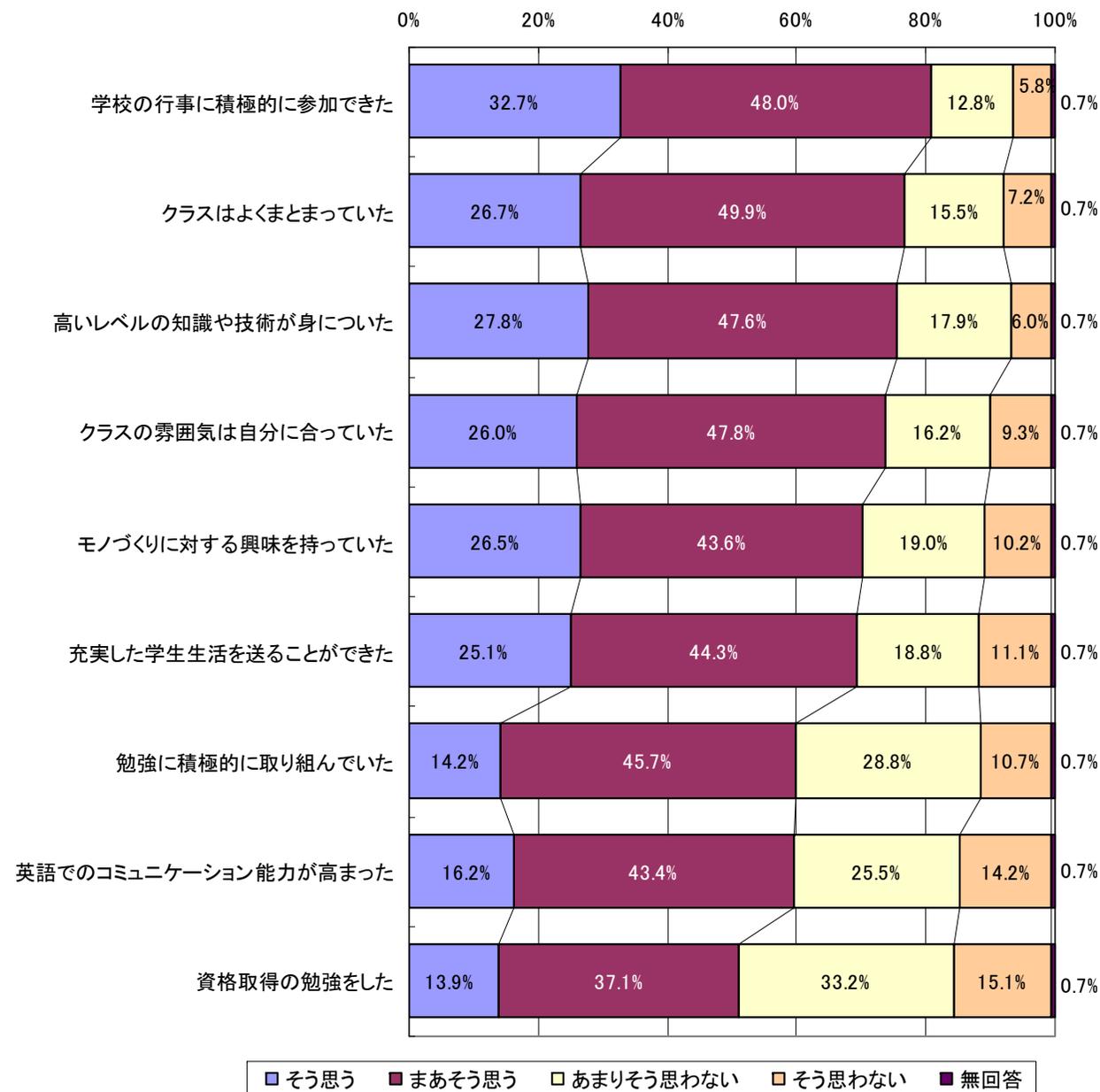
■学校の取り組み姿勢の評価 学科別比較



## ■学校での過ごし方

- 学校での過ごし方で肯定的な意見が最も多かったのは「学校の行事に積極的に参加できた」の80.7%であった。
- 上記に次いで、「クラスはよくまとまっていた」が76.6%、「高いレベルの知識や技術が身についた」が75.4%、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が73.8%と続いており、クラスのまとまりや雰囲気はとでも良さそうであった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「資格取得の勉強をした」の51.0%であり、ほぼ半数が否定的な回答をしていた。続いて「英語でのコミュニケーション能力が高まった」が59.6%、「勉強に積極的に取り組んでいた」が59.9%であり、英語や勉強に対しては4割程度が否定的な意見であった。

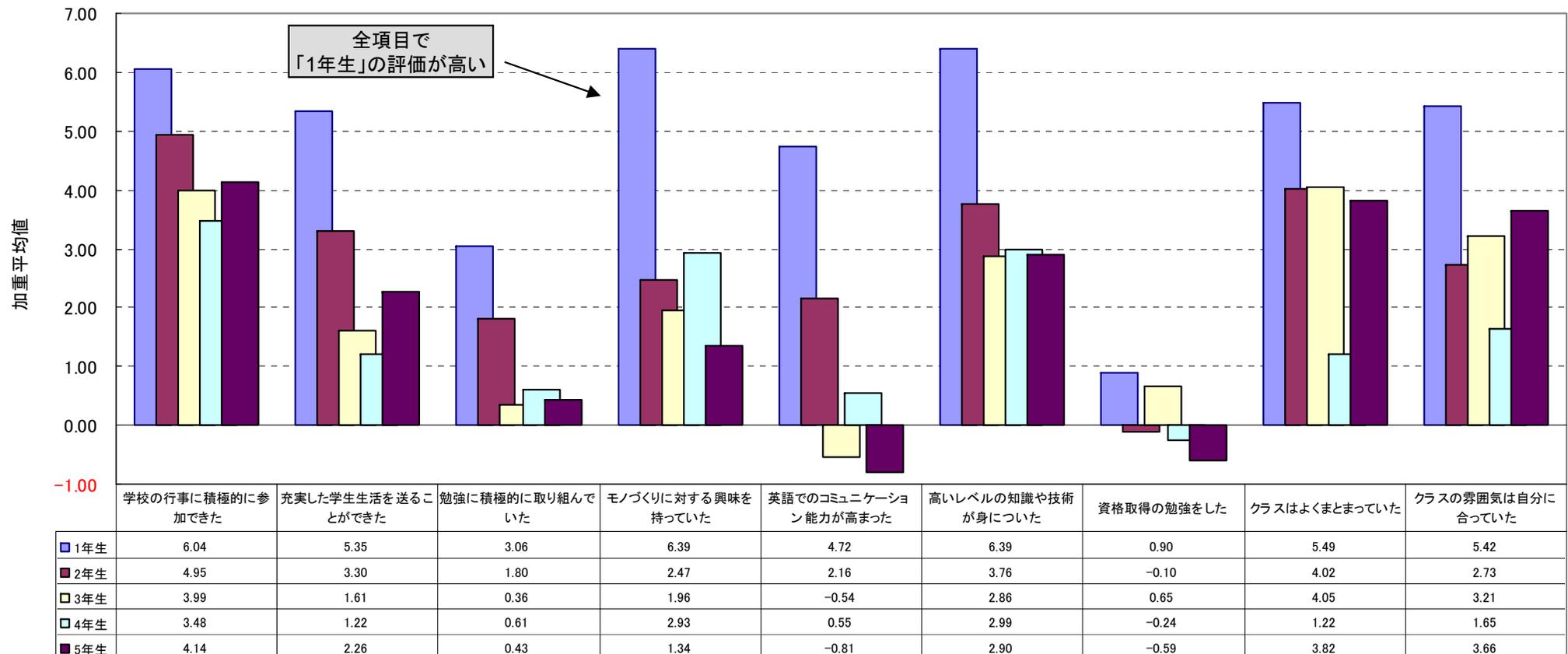
### ■学校での過ごし方(在学生のみ)



## ■学校での過ごし方の学年別比較

- 学校での過ごし方の学年別比較を見ると、すべての項目で「1年生」の評価が最も高かった。その中でも高さが目立っていたのは「モノづくりに対する興味を持っていた」「英語でのコミュニケーション能力が高まった」「高いレベルの知識や技術が身についた」であり、「1年生」は学習面が充実していた様子がうかがえる。また、「充実した学生生活を送ることができた」「クラスの雰囲気は自分に合っていた」も高かった。
- 一方、低い項目が目立っていたのは「4年生」で、「学校の行事に積極的に参加できた」「充実した学生生活を送ることができた」「クラスはよくまとまっていた」「クラスの雰囲気は自分に合っていた」の評価が低かった。特に「クラス」に関する2項目の低さが目立っていた。
- その他、「5年生」が「モノづくりに対する興味を持っていた」「英語でのコミュニケーション能力が高まった」「資格取得の勉強をした」がやや低めとなっていた。

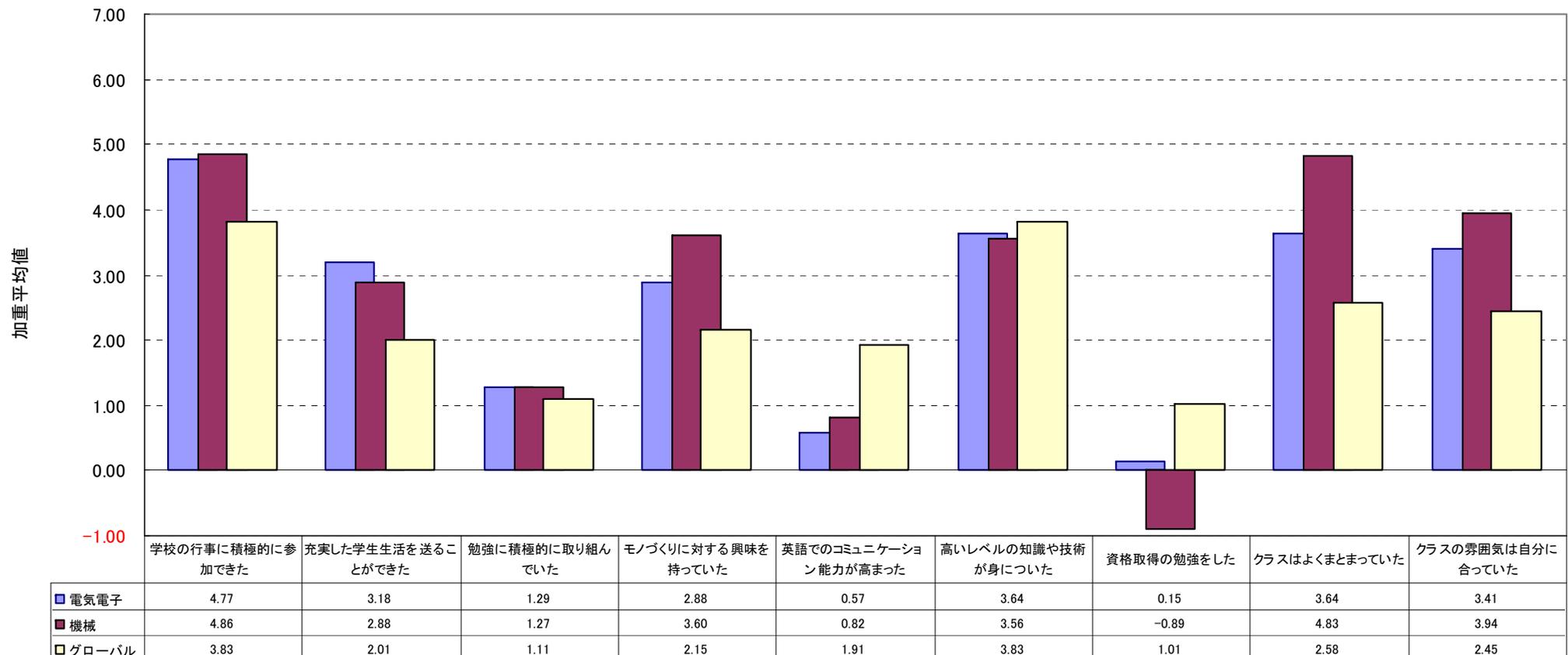
### ■学校での過ごし方 学年別比較



## ■学校での過ごし方の学科別比較

- 学校での過ごし方を学科別に比較すると、いくつかの項目で「機械」が高く、「グローバル」が低いものが見られた。
- 「機械」は「クラスはよくまとまっていた」と「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が高く、「クラス」の状況が良さそうであった。また、「モノづくりに対する興味を持っていた」「学校の行事に積極的に参加できた」も高かったが、「資格取得の勉強をした」が大きくマイナスになっている点が特徴的であった。
- 「グローバル」は「英語でのコミュニケーション能力が高まった」と「資格取得の勉強をした」の高さが目立っていたが、その他は低めであった。特に「クラス」に関する2項目が低く、「モノづくりに対する興味を持っていた」も低かった。
- 「電気電子」は特に目立つものはなかったが、「充実した学生生活を送ることができた」はわずかな差ではあるが最も高かった。

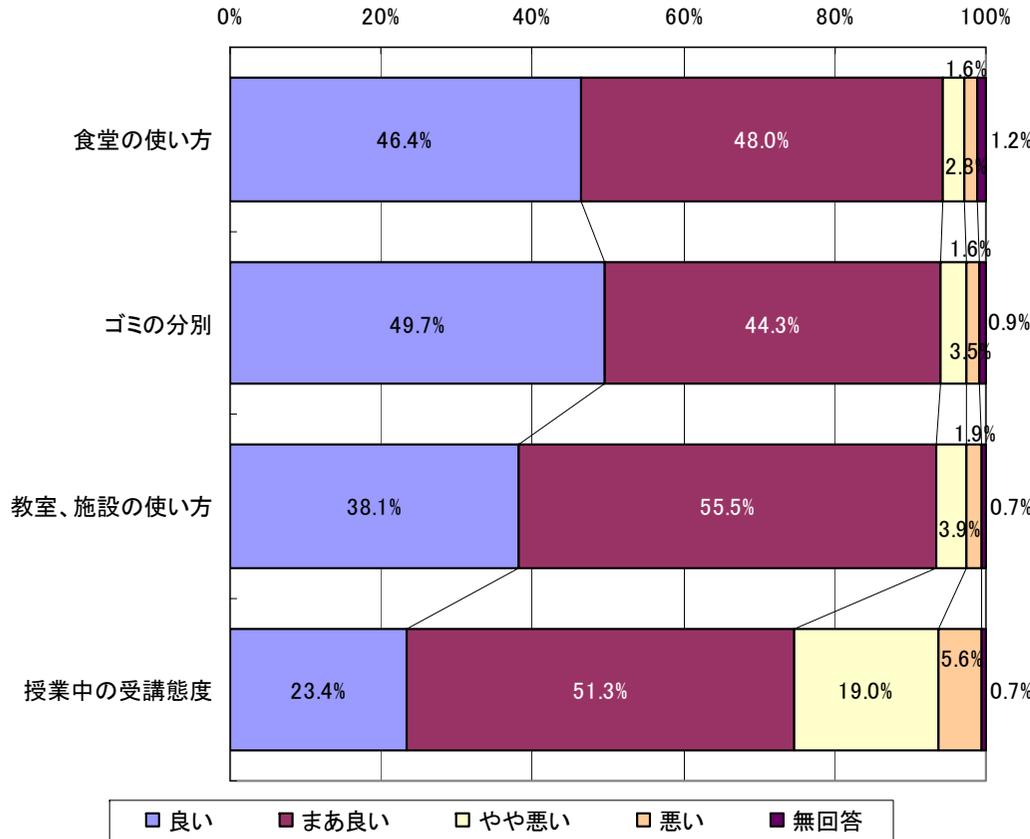
### ■学校での過ごし方 学科別比較



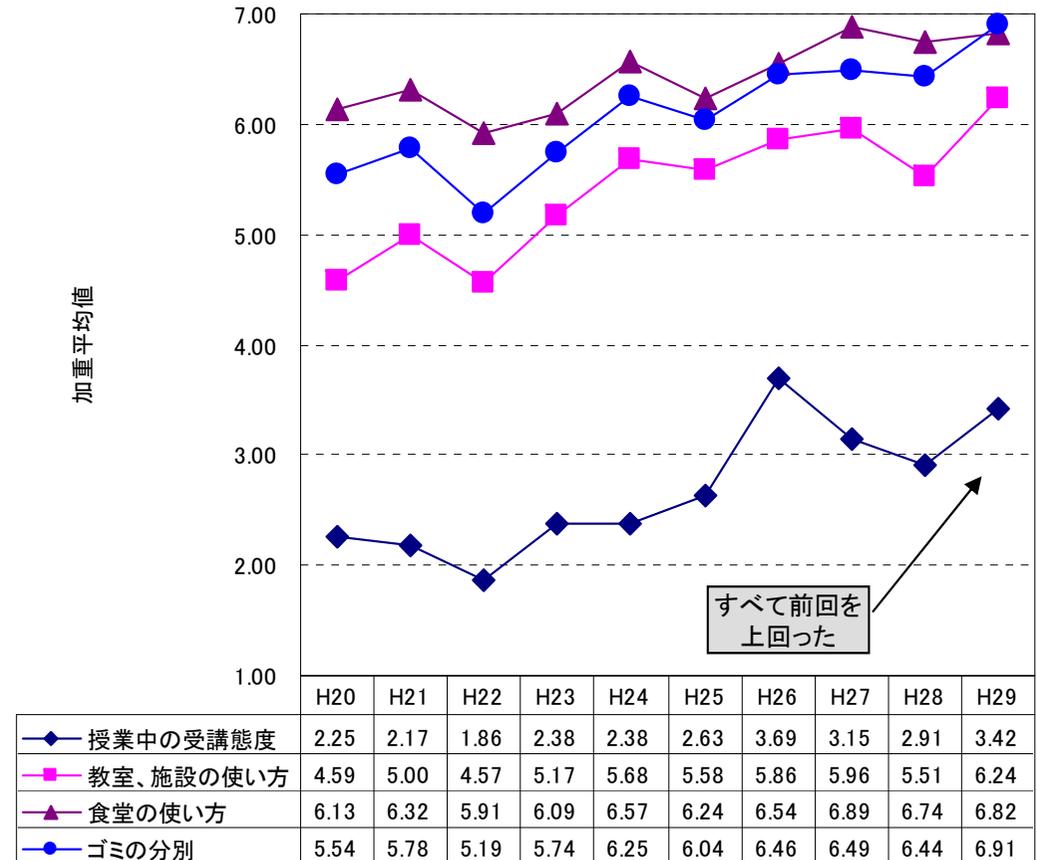
## ■学内での自分自身のマナー

- 学内でのマナーの質問は、「学生自身が自分のマナーをどう思うか?」という、自己評価を聞く質問になっている。
- 自己評価が最も高かったのは「食堂の使い方」であり、94.4%が肯定的な意見であった。そして、「ゴミの分別」が94.0%、「教室、施設の使い方」が93.6%となっていた。そして、最も低かったのは「授業中の受講態度」の74.7%であったが、問題があるという解答は24.6%にとどまっていた。
- 年度別の比較を見ると、すべての項目で前回を上回り、マナーは良くなっていると自己評価をしていた。特に「教室、施設の使い方」と「ゴミの分別」は過去最高となっており、他の2項目も過去2番目に高かった。

### ■学内での自分自身のマナー(在学生のみ)



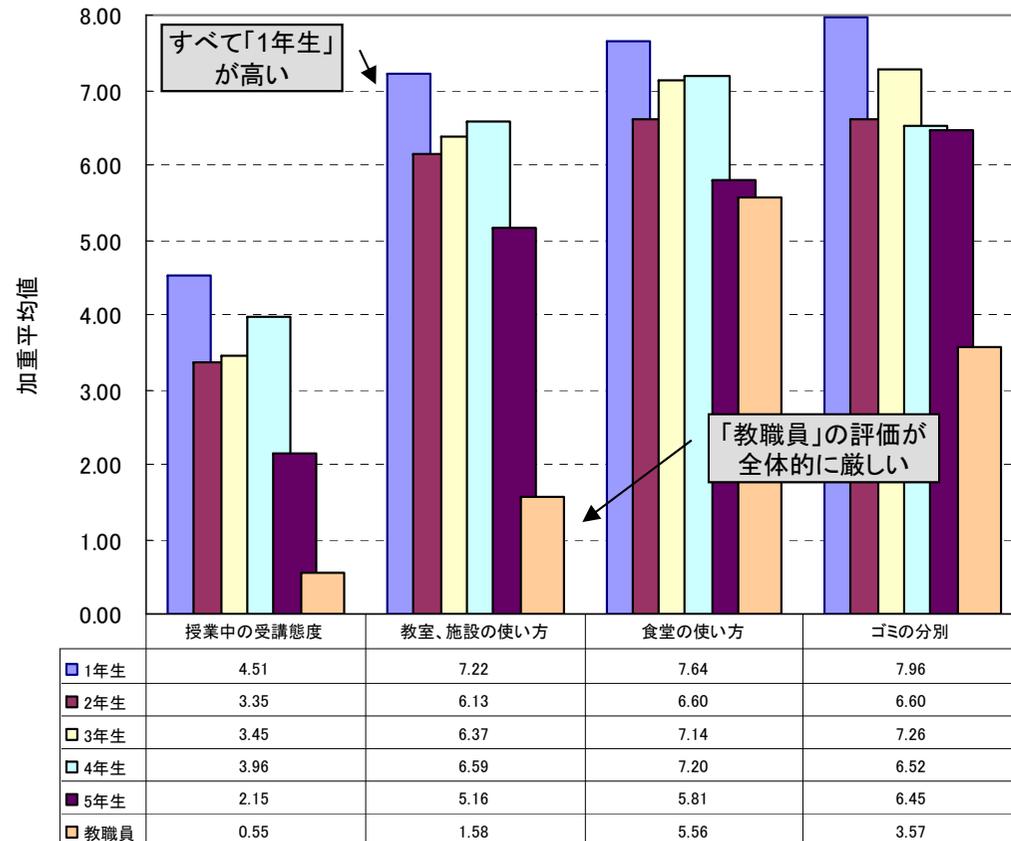
### ■学内での自分自身のマナー 年度別比較



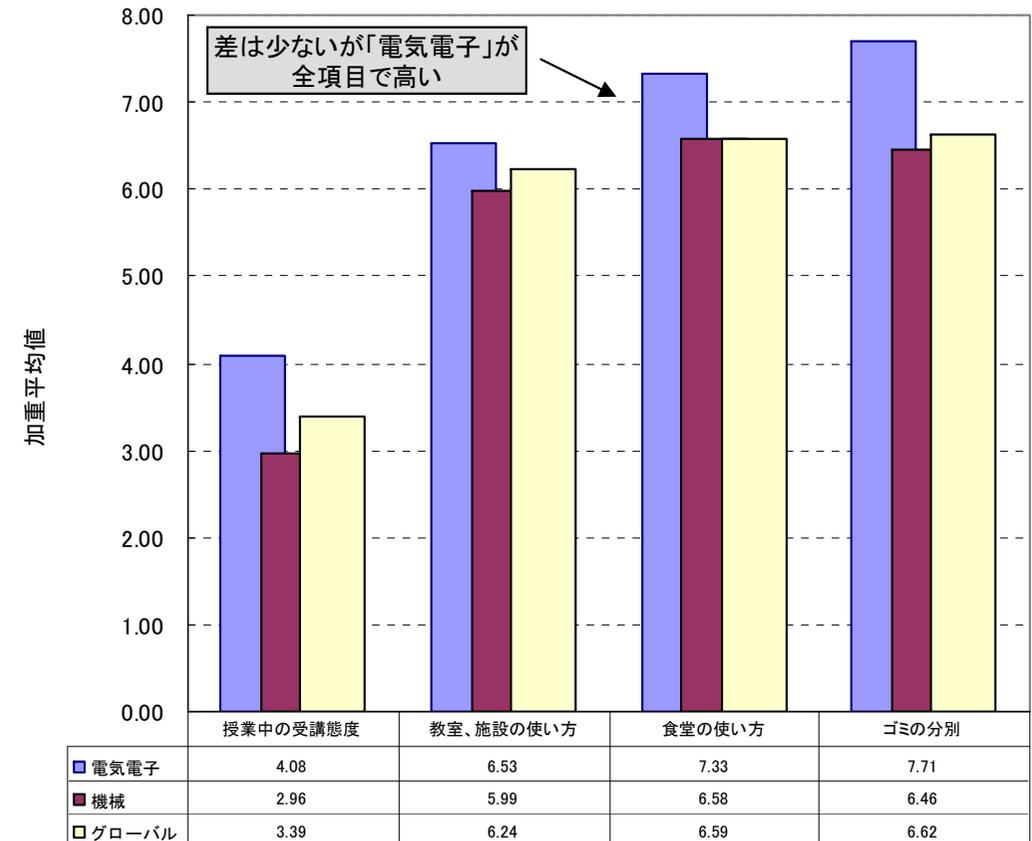
■学内での自分自身のマナーの学年別比較 学科別比較

- 自分自身のマナーの学年別比較を見ると、すべての項目で「1年生」の自己評価が高かった。そして、「2年生」から「4年生」の差はそれほど大きくなかったが、「5年生」の「授業中の受講態度」「教室、施設の使い方」「食堂の使い方」の評価は他の学年より低く、厳しい自己評価となっていた。
- 「教職員」には「学生のマナーをどう思うか」と質問しているが、「食堂の使い方」以外は非常に厳しい評価となっていた。
- 学科別の比較では、差は小さいものの全項目で「電気電子」の自己評価が最も高かった。そして、「機械」と「グローバル」の差は非常に小さかった。

■学内での自分自身のマナー 学年別比較 (教職員も含む)



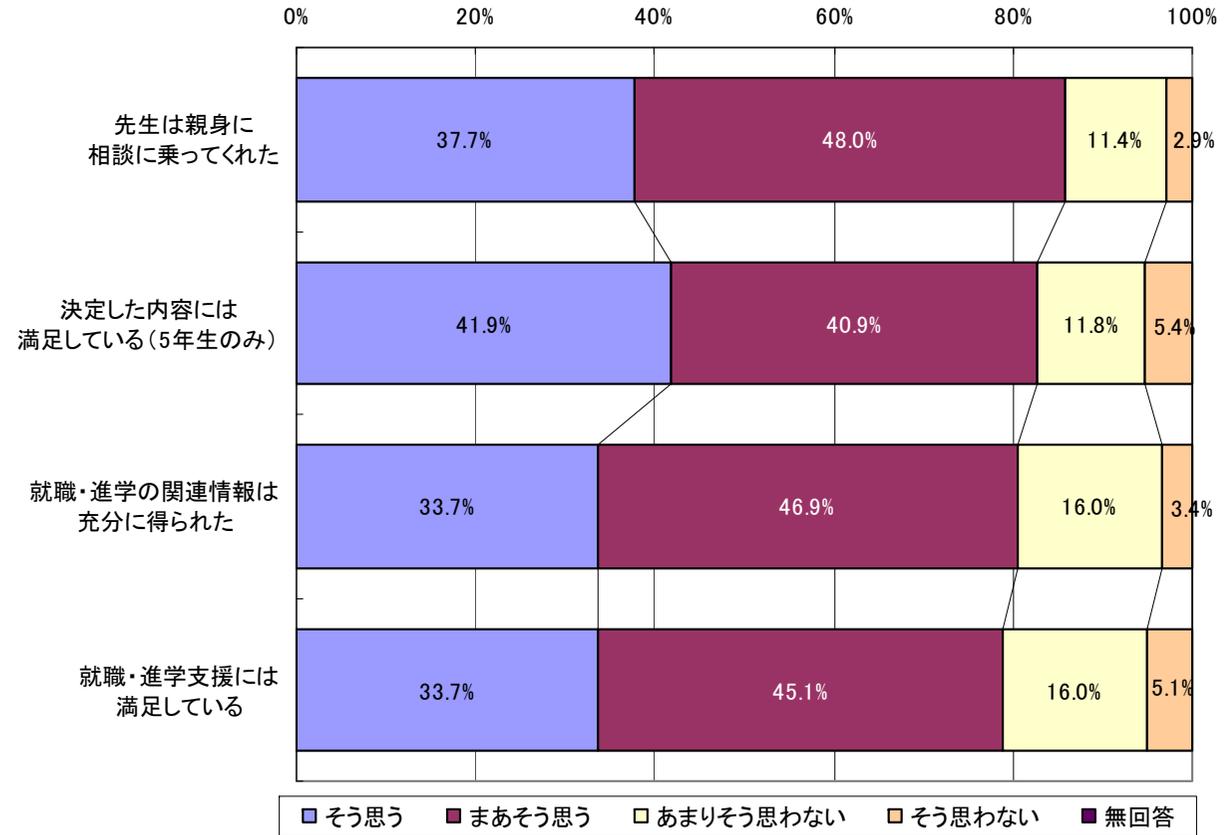
■学内での自分自身のマナー 学科別比較



## ■就職・進学支援に関して

- 「就職・進学支援」の評価は「4年生」と「5年生」に聞いている。
- 満足度が最も高かったのは「先生は親身に相談に乗ってくれた」であり、肯定的な意見が85.7%であった。
- 次に、「決定した内容には満足している」が82.8%、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」が80.6%であった。最も低かった「就職・進学支援には満足している」についても78.8%が満足と回答しており、満足度は高いと言える。

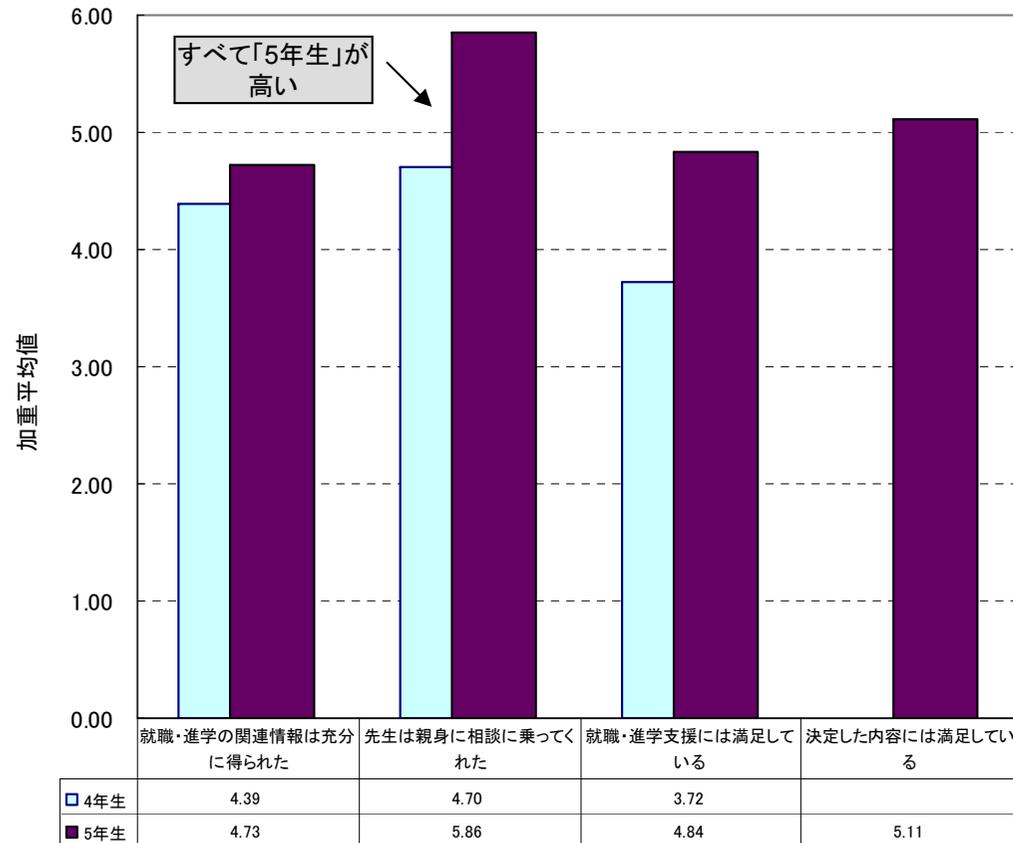
### ■就職・進学支援の評価（4年生、5年生のみ）



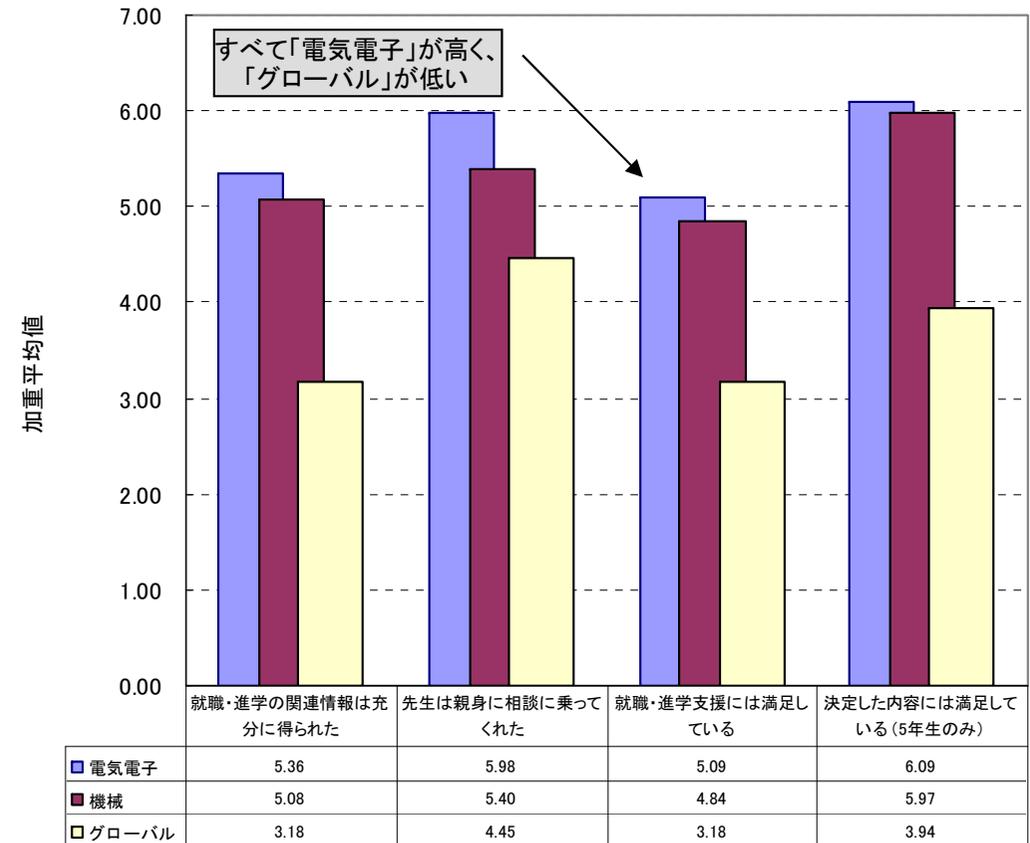
■就職・進学支援の評価の学年別比較 学科別比較

- 「就職・進学支援」を学年別に比較すると、全項目で「5年生」の満足度の方が高く、「就職・進学支援には満足している」も大きな差がついていた。
- 学科別の比較では、全項目で「電気電子」の満足度が最も高く、次いで、「機械」「グローバル」の順になっていた。「電気電子」と「機械」の差は小さかったが、「グローバル」は低さが目立っており、「就職・進学支援には満足している」に関しても、他の2学科と大きな差がついていた。

■就職・進学支援の評価 学年別比較



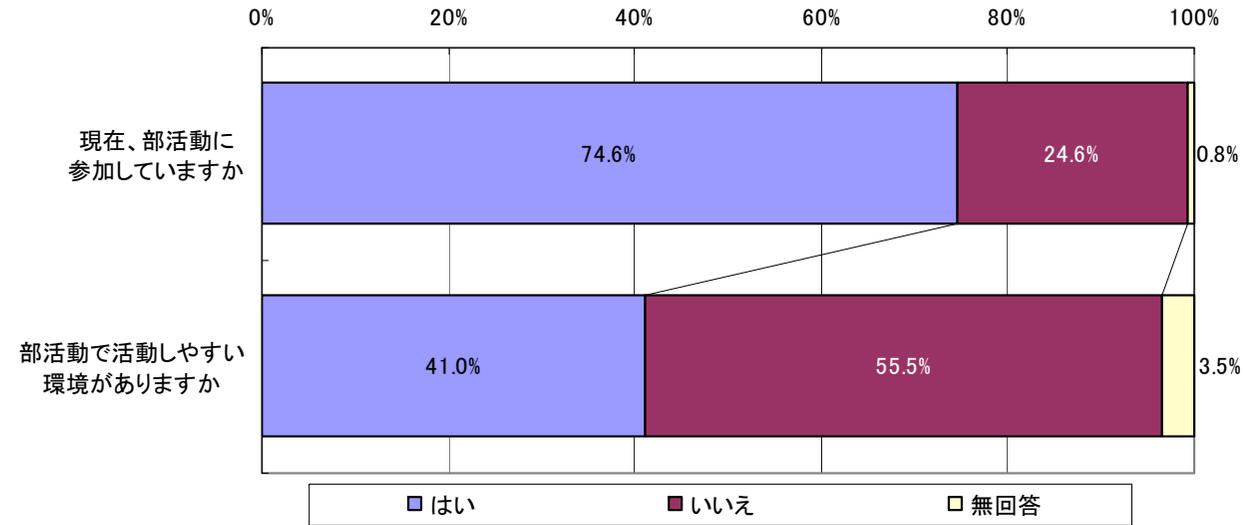
■就職・進学支援の評価 学科別比較



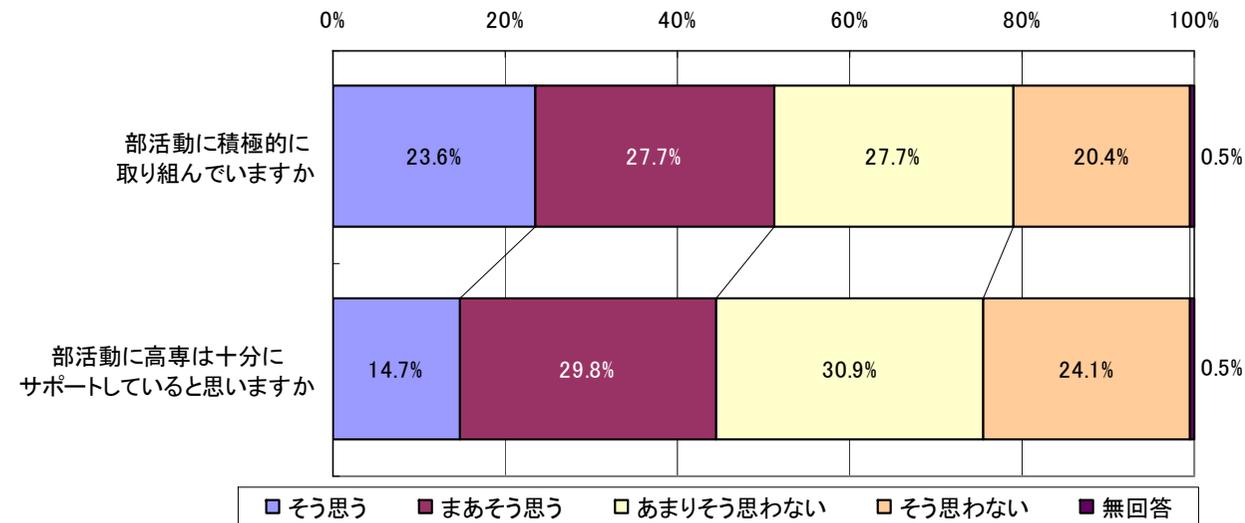
## ■部活動の現状に関して

- 「部活動の現状」は1～3年生に聞いており、続く「現状評価」は部活動の参加者だけの回答を集計している。
- 「現在、部活動に参加していますか」という問いに対しては、ほぼ3/4の74.6%が「はい」と答えていた。そして、「部活動で活動しやすい環境がありますか」では41.0%が「はい」と答えていた。
- 部活動参加者に「部活動に積極的に取り組んでいますか」と聞くと、ほぼ半数の51.3%が肯定的な意見であった。そして、「部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか」では44.5%が肯定的な意見であり、半数以上がサポートに不満を持っていた。

### ■部活動の現状に関して(1～3年生のみ)



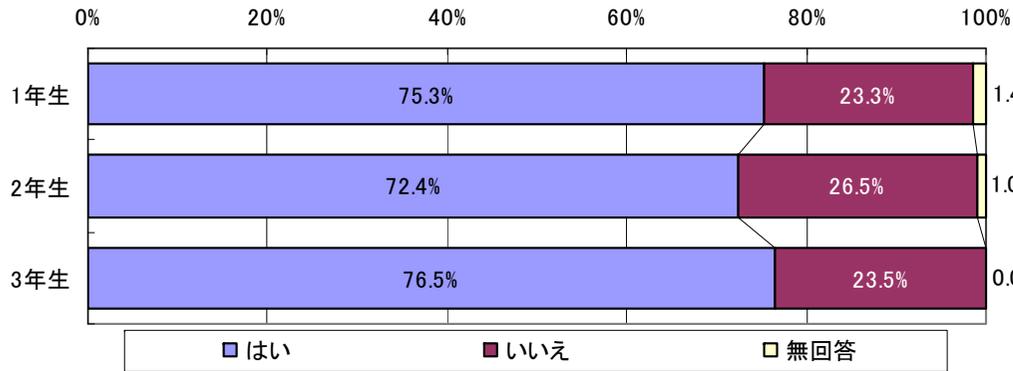
### ■部活動参加者の現状評価(1～3年生、部活動参加者のみ)



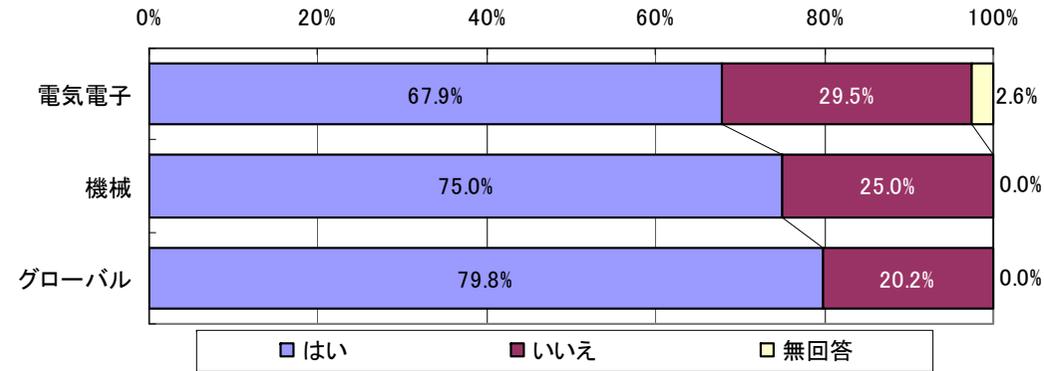
■部活動の現状の学年別比較 学科別比較

- 学年別の「部活動の参加者」を比較したところ、「1年生」が75.3%、「2年生」が72.4%、「3年生」が76.5%であり、最も大きな差でも4.1ポイントと小さく、学年との相関関係は見られなかった。しかし、「部活動で活動しやすい環境がありますか」は高学年ほど不満意見が多い傾向が見られ、「1年生」の56.2%に対して、「2年生」が37.8%、「3年生」が31.8%となっていた。
- 学科別に「部活動の参加者」を比較したところ、「グローバル」が79.8%で最も多く、次いで、「機械」が75.0%、「電気電子」が67.9%となり、「グローバル」と「電気電子」との差は11.9ポイントになった。「部活動の環境」に対する肯定的な意見は「機械」が48.8%で最も多く、「グローバル」(36.2%)と「電気電子」(38.5%)はほぼ同じ評価となった。

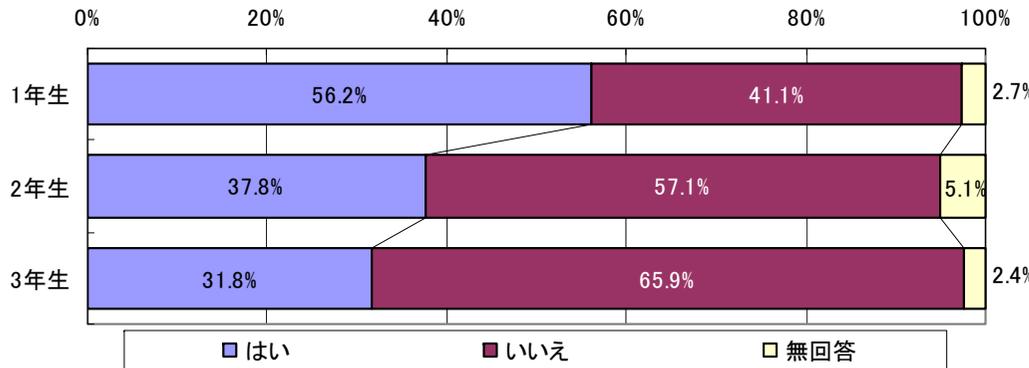
■現在、部活動に参加していますか 学年別比較



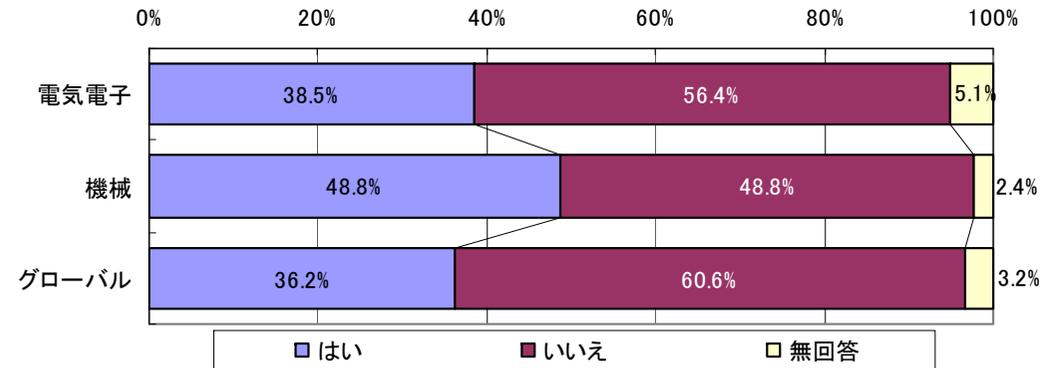
■現在、部活動に参加していますか 学科別比較



■部活動で活動しやすい環境がありますか 学年別比較



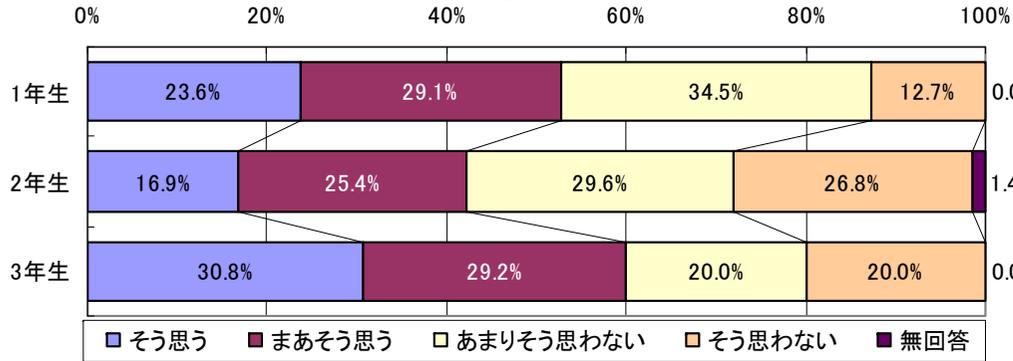
■部活動で活動しやすい環境がありますか 学科別比較



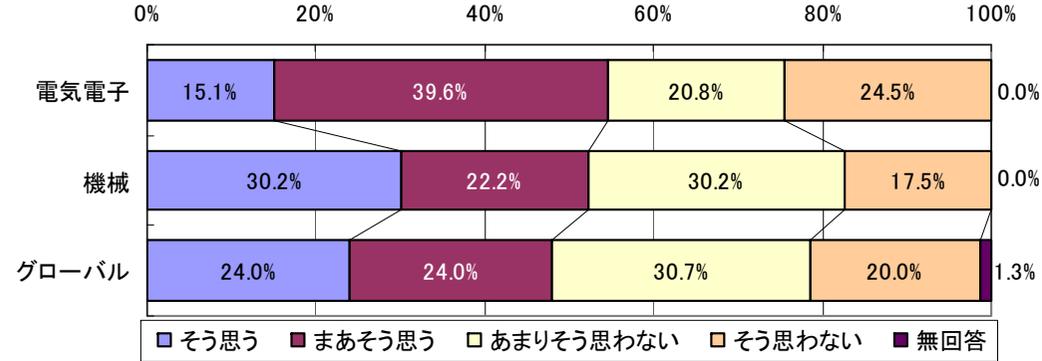
■部活動参加者の現状評価の学年別比較 学科別比較

- 「部活動への積極性」の肯定的な意見を学年別に比較したところ、「3年生」が60.0%で最も多く、次いで、「1年生」が52.7%、「2年生」が42.3%と続いていた。
- 「高専のサポート」では「1年生」で肯定的な意見が最も多く63.6%であったが、「2年生」は38.1%、「3年生」は35.4%と高学年ほど低下しており、「1年生」の高さが目立っていた。
- 「部活動への積極性」を学科別に見ると、肯定的な意見は「電気電子」が54.7%、「機械」が52.4%、「グローバル」が48.0%となっており、それほど大きな差ではなかったが、「そう思う」だけを見ると「機械」が30.2%と高く、強い積極性を持った学生が多いことが分かった。
- 「高専のサポート」の肯定的な意見は「機械」が47.6%、「グローバル」が46.7%で、差は少なかったが、「そう思う」だけを見ると「機械」の高さが目立っており、ここでも満足度の高さがうかがえた。また、「電気電子」は肯定的な意見が37.7%であり、他の2学科に比べて低さが目立っていた。

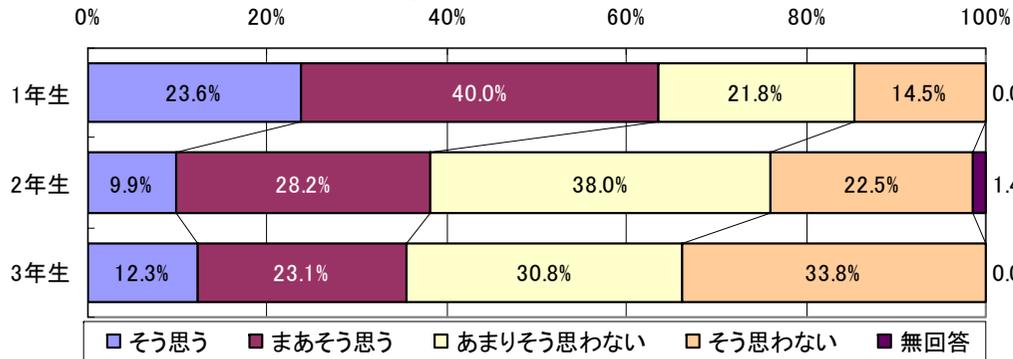
■部活動に積極的に取り組んでいますか  
学年別比較(参加者のみ)



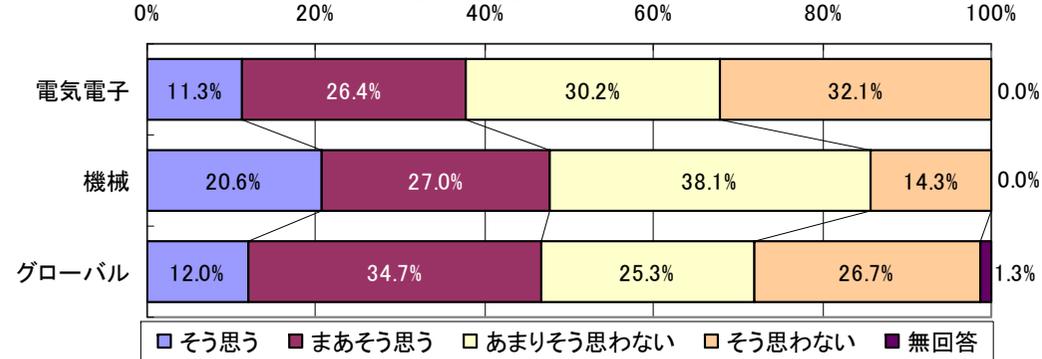
■部活動に積極的に取り組んでいますか  
学科別比較(参加者のみ)



■部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか  
学年別比較(参加者のみ)



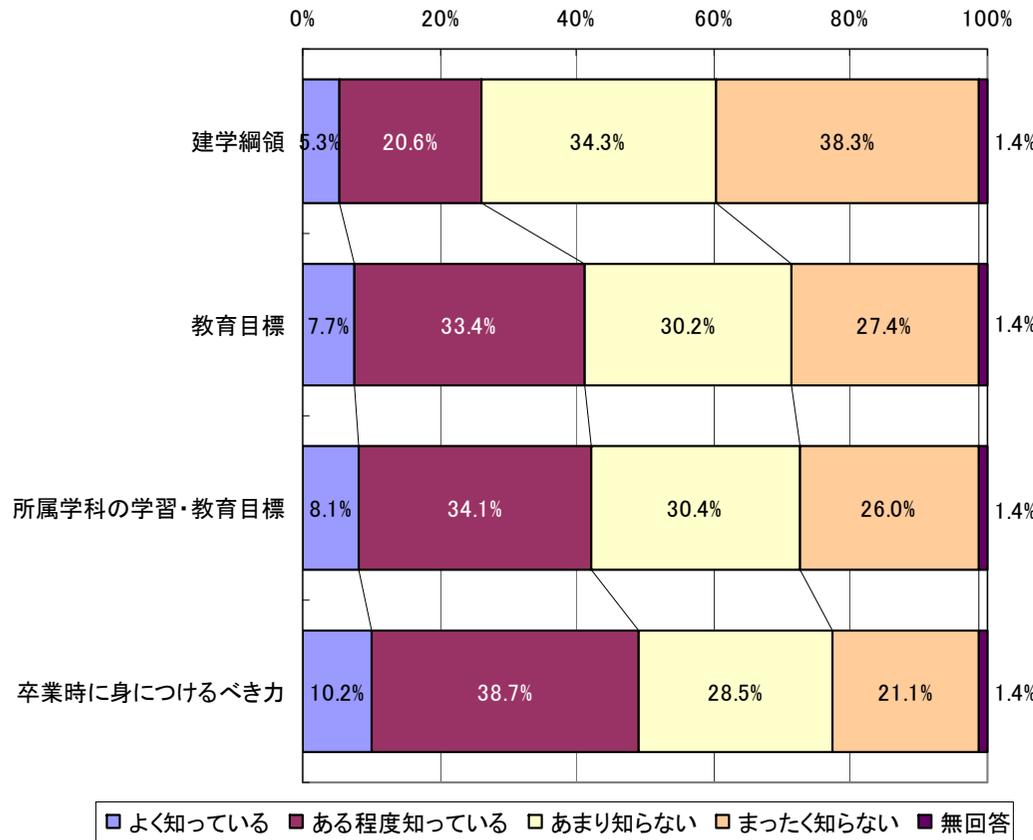
■部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか  
学科別比較(参加者のみ)



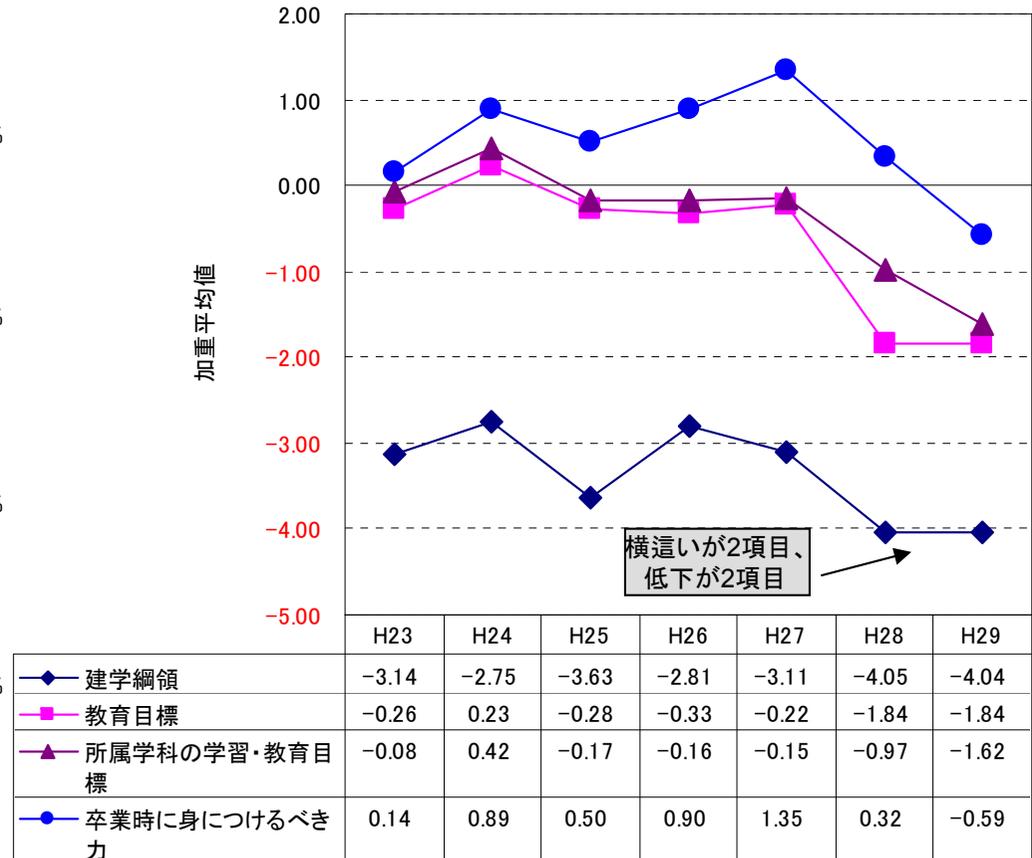
## ■KTCの目的・目標に対する意識

- KTCの目的・目標に関する意識の「建学綱領」に関しては「よく知っている」が5.3%、「ある程度知っている」が20.6%であり、合計すると25.9%であった。そして、「教育目標」では41.1%、「所属学科の学習・教育目標」では42.2%、「卒業時に身につけるべき力」は48.9%が知っているという回答であった。
- 年度別の比較を見ると、「建学綱領」と「教育目標」の認知度はほぼ横這いで、いずれも過去最低レベルを継続していた。そして、「所属学科の学習・教育目標」と「卒業時に身につけるべき力」はH27から低下傾向が続いており、両者共に過去最低の認知度となっていた。特に「卒業時に身につけるべき力」は初めてマイナススコアとなった。

■KTCの目的・目標に対する意識(在学生のみ)



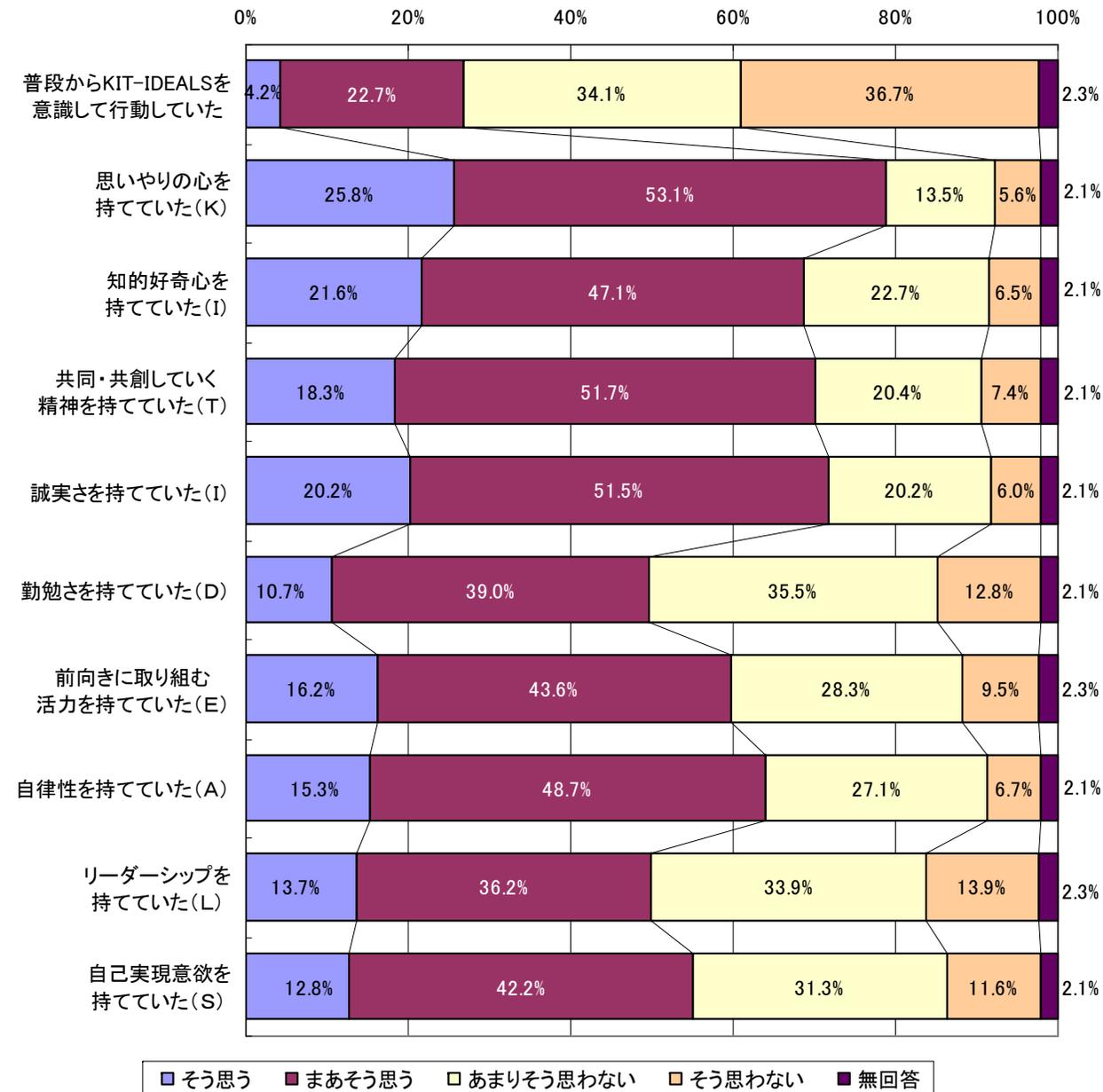
■KTCの目的・目標に対する意識 年度別比較



## ■KIT-IDEALSに関して

- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」では、「そう思う」が4.2%、「まあそう思う」が22.7%であり、合計すると26.9%が肯定的な意見であった。
- KIT-IDEALSの9項目の中では、「思いやりの心を持っていた(K)」が最も高く、肯定的な意見は78.9%であった。
- 上記に次いで、「誠実さを持っていた(I)」が71.7%、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」が70.0%、「知的好奇心を持っていた(I)」が68.7%と続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは、「勤勉さを持っていた(D)」の49.7%であり、「リーダーシップを持っていた(L)」が49.9%で続いていた。

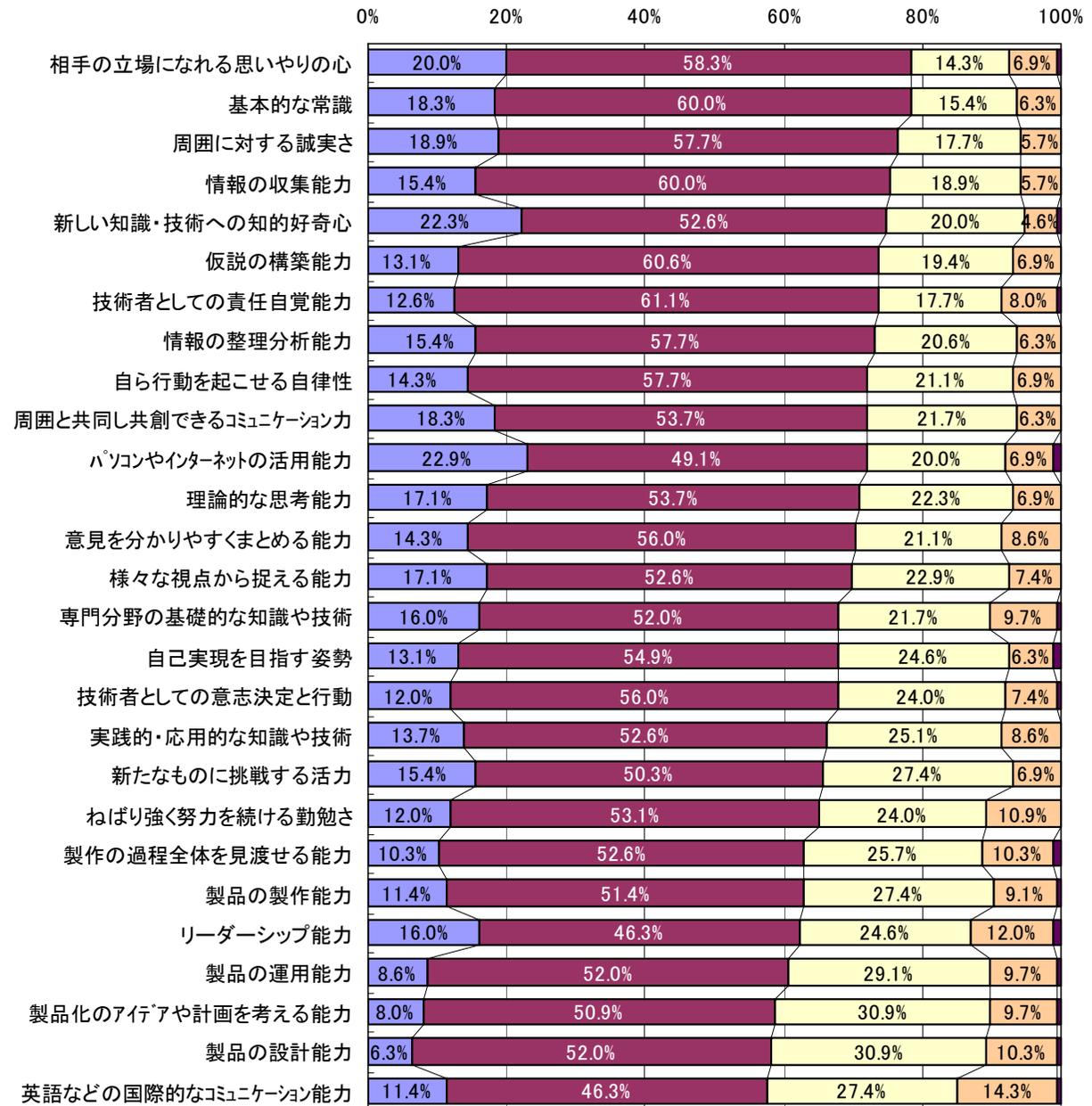
### ■KIT-IDEALSに関して(在学生のみ)



## ■自分自身の能力の評価

- 「学生が考える現段階の自分自身の能力」は「4年生」と「5年生」に聞いた質問であり、グラフは肯定的な意見の合計で並べている。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「相手の立場になれる思いやりの心」と「基本的な常識」であり、いずれも、肯定的な意見が78.3%であった。
- 上記に次いで、「周囲に対する誠実さ」が76.6%、「情報の収集能力」が75.4%、「新しい知識・技術への知的好奇心」が74.9%と続いていた。
- 「満たしている」だけを見ると、「パソコンやインターネットの活用能力」が22.9%、「新しい知識・技術への知的好奇心」が22.3%であり、これらに強い自信を持っている学生も少なくなかった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」の57.7%であり、「製品の設計能力」が58.3%、「製品化のアイデアや計画を考える能力」が58.9%と続いており、下位には「製品開発」に関連する具体的なものが多く見られた。

### ■学生が考える現段階の自分自身の能力(4年生、5年生のみ)

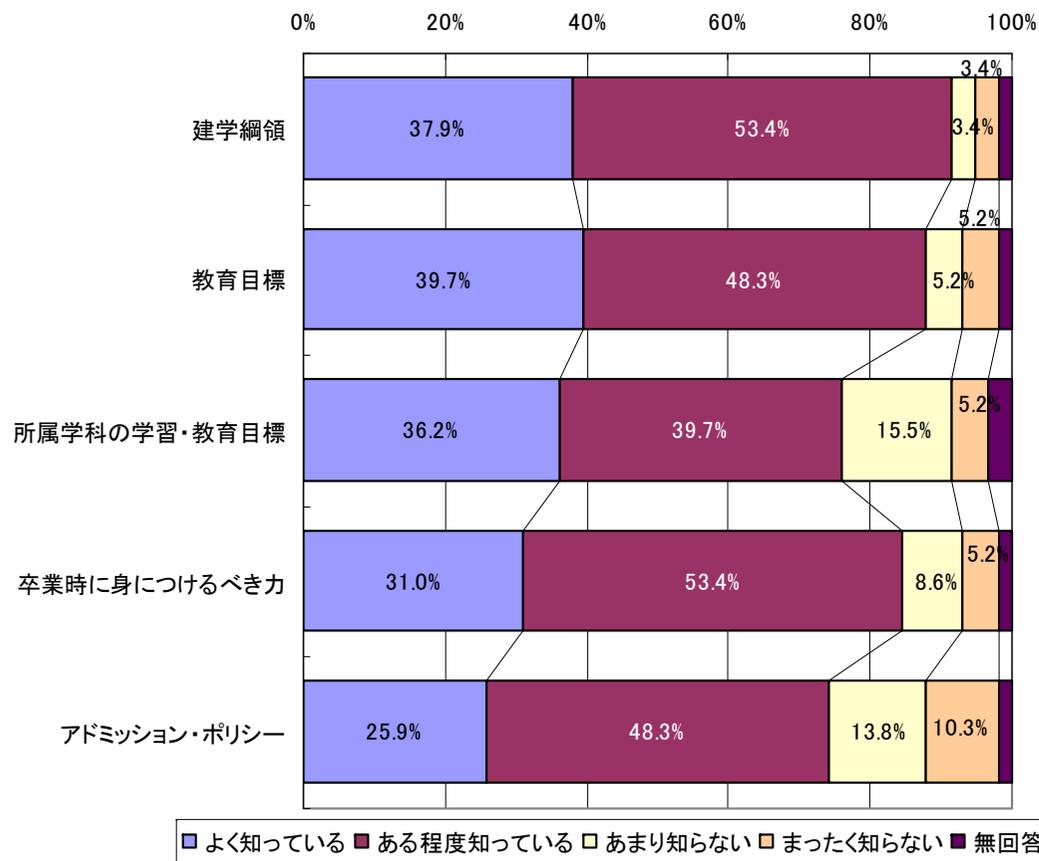


■ 満足している ■ 少し満足している □ あまり満足していない □ 満足していない ■ 無回答

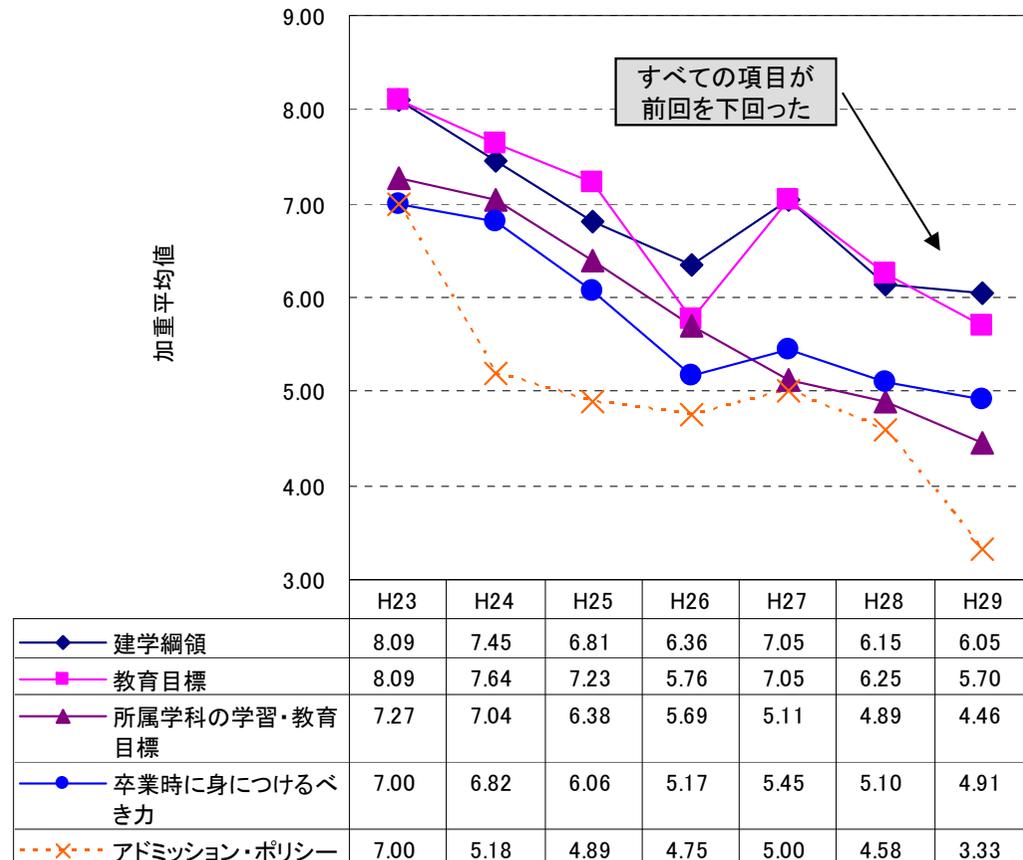
## ■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 教職員の意識としては、「建学綱領」の認知度は91.3%、「教育目標」が88.0%、「所属学科の学習・教育目標」が75.9%、「卒業時に身につけるべき力」が84.4%、「アドミッション・ポリシー」が74.2%で、いずれも7割以上の認知度であった。「所属学科の学習・教育目標」と「アドミッション・ポリシー」に関しては2割程度が知らないと答えていた。
- 年度別比較では、H27からの低下傾向が継続しており、全項目で前回は大きく下回って過去最低となっていた。特に「アドミッション・ポリシー」の低下が大きかった。

### ■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識(教職員)



### ■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識 年度別比較



### <学生の満足度や目的・目標意識に関して>

◆金沢高専に満足という回答は、ここ10年間で最低の58.5%となった。

◆「目的・目標意識あり」の割合も過去最低であった。

◆以前の「3年生」での中だるみと異なり、「1年生」の時点の高い満足度が、それ以降に一気に低下する傾向が見られる。これに関してはしっかりと現状把握をしておく必要がある

「満足度」「目的・目標」ともに低い。

「2年生」で満足度が大きく低下する点に注意深く見ていく必要がある。

教員との関係性は気をつけて見ていく必要あり。

情報伝達への不満は何に起因するものなのか？

クラスのまとまりは良いのに総合満足度が低いのは？

### <授業・学習サポートに関して>

◆「授業」の変化は少ないが、「教員および学習支援」「モノづくり・英語・国際性」は前回より低下したものが多く、満足度との関連も考えられる。

◆現段階では大きな課題は見られないが、教員との関係性の悪化には、今後、気をつけていく必要があると思われる。

◆高専の特徴の一部である「英語」「国際性」の評価が低下しており、しっかりと現状把握をしておく必要があると思われる。

就職・進学は社会環境によって大きく変動している。

### <その他の環境に関して>

◆就職や進学支援に関しては、前々回から前回にかけては低下していたが、今回は全指標ともに前を上回った。社会環境によるところが大きいですが、充実した様子が見え始めた。

◆学生は「思いやりの心」「基本的な常識」に自信を持っているが、「国際コミュニケーション」に自信を持っておらず、教職員は卒業生の「様々な視点から捉える能力」「理論的思考力」などを弱みと見ていた。

満足度は過去10年で最低。目的・目標意識は過去最低となった。また、「2年生」での大幅な満足度低下など、気になる点が多い。

教職員の不満が増大している点に気になる。「新高専」への移行も控えており、早い時期にしっかりと現状把握と対策が必要ではないかと思われる。

学生、教職員ともに良い状態とは言えない。要因として「新高専移行」「休校の連絡不備」などが考えられるが、しっかりと把握して対処する必要があると思われる。

### <学校での過ごし方に関して>

◆学生・保護者への情報伝達の満足度が大きく低下していたが、自由記述を見ると「新高専の状況報告の不備」「雪による休校の連絡の不備」などの影響が考えられる。

◆「クラスのまとまり」の満足度は過去最高となった。他に「モノづくりに対する興味」「資格取得の勉強」も評価が上がった。

◆「部活動」の「参加率」は横這いであったが、「積極性」は過去最低となり、「部活動の環境」「高専のサポート」への不満も大きく、環境は良好とは言えない。

「満足度」と共に「誇り」「やりがい」を失っている点は非常に気になった。

### <教職員の意見に関して>

◆教職員の半数以上(53.4%)が金沢高専に不満と答えていた。

◆忙しさや時間のなさ、業務改善が進まない状況に教職員が不満を募らせており、「誇り」や「やりがい」も失ってきている様子が見え始めた。

◆「授業および学習支援」や「理解不足の学生サポート」など、授業に関する自己評価は前を上回っていた。

---

平成29年度

## 高専総合アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成30年6月11日
  - 発行者 国際高等専門学校
  - 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
  - 編集 金沢工業大学企画部CS室
- 

無断複製厳禁

再生紙を使用しています